

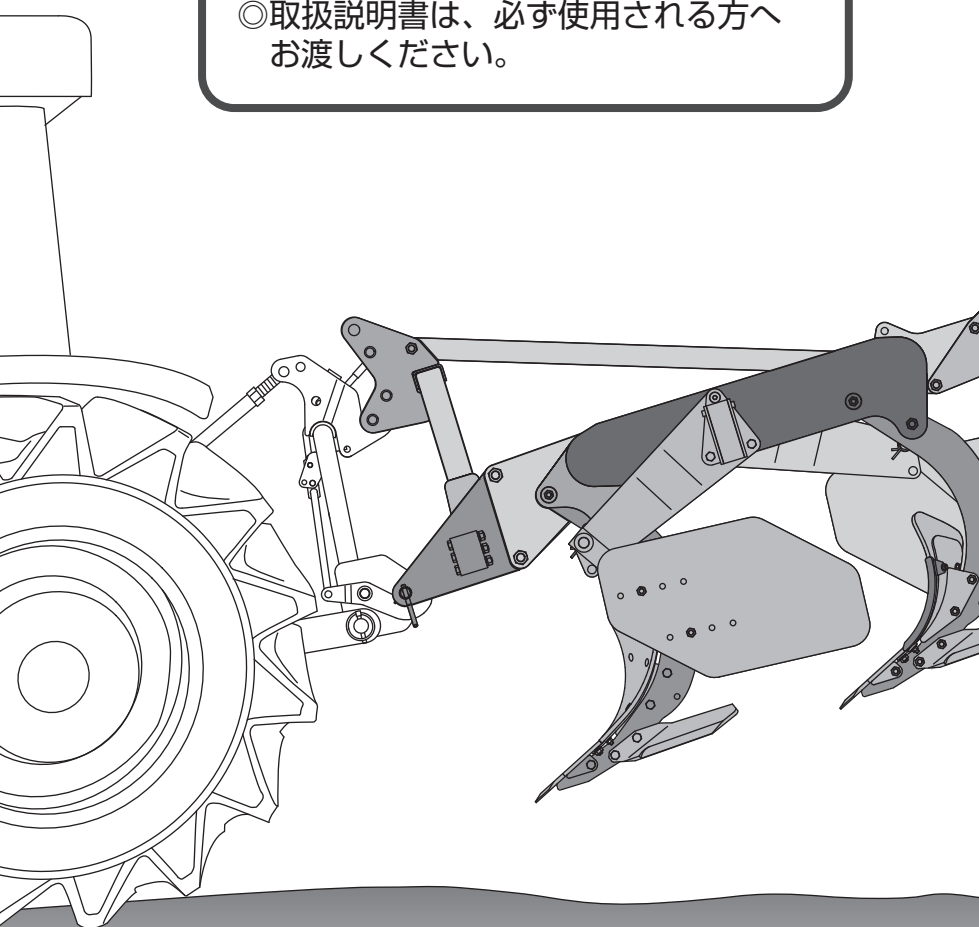
ニプロ

スピード カルチ

APS 1901/2501
1901T/2501T

◎ご使用の前に必ず本取扱説明書を
よくお読みになり、使用後は大切に
保管してください。

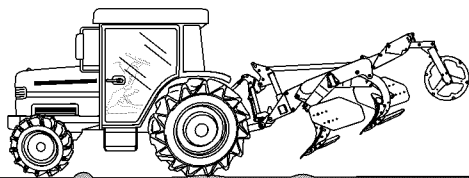
◎取扱説明書は、必ず使用される方へ
お渡しください。



Niplo

取扱説明書

- 1 安全について
- 2 概要と各部の名称
- 3 製品の確認
- 4 取付ける前に
- 5 取付けについて
- 6 調整について
- 7 移動・ほ場への出入りと作業
- 8 取外しについて
- 9 保守・点検
- 10 格納について
- 11 保証とサービスについて
- 12 用語と解説



はじめに

このたびは、ニプロスピードカルチをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

この取扱説明書は、製品の取扱方法や操作手順、使用上の注意事項などを説明したものです。ご使用前に必ずよく読み十分理解されてから、正しくお取扱いください。

使用目的・用途について

- 本スピードカルチ（以下作業機と記す）は、トラクタに取付け、水田収穫後の簡易耕うんに使用してください。使用目的以外の作業には、決して使用しないでください。使用目的以外の作業で故障した場合は、保証の対象になりません。
- 傷害の発生をさけるため、使用目的以外の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。

国外への持ち出し（輸出）について

- 本作業機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定などは実施していません。本作業機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償などの問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を負いません。

安全対策について

- 当社は、本作業機に関する危険をすべて予測することができません。また、取扱説明書や警告ラベルでその危険をすべて伝えることができません。したがって、作業機の運転、保守作業については、一般的に求められる安全対策の配慮が必要です。
- 日本語を母国語としない人が本作業機を取扱う場合は、お客様において取扱者に対して取扱指導および安全指導を実施してください。
さらに、取扱者の母国語で、警告ラベル記載文言に相当する文言を貼付・記載してください。
- この取扱説明書には安全に作業をしていただくために、安全上のポイント「1.3 安全に作業をするために」（4～12ページ）を記載しています。ご使用前に必ず読み、理解してください。

廃棄処理に関する注意事項

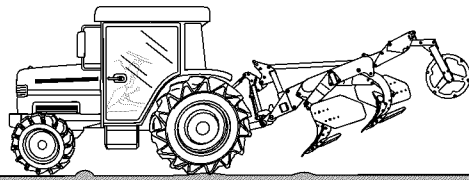
- 本作業機や消耗部品の廃棄については、各地方の条例に従ってください。

この取扱説明書の取扱いおよびお問い合わせ

- この取扱説明書は、当社の著作物です。無断でこの取扱説明書のすべて、もしくは部分的に関わらず、当社の同意なしに複写・複製することを禁じます。
- 品質、性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。そのような場合には、この取扱説明書の内容およびイラストなどの一部が本作業機と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- お読みになった後は、必ず作業機の近くに保管し、必要になったときに読めるようにしてください。
- 作業機を他人に貸したり、譲り渡されたりする場合は、この取扱説明書を作業機に添付してお渡ししてください。
- この取扱説明書を紛失、または損傷した場合は、速やかにお買い上げいただきました購入先へご注文ください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただきました購入先へご相談ください。

型式と区分について

- この取扱説明書では、型式・区分の異なる作業機を併記しています。
お買い上げいただいた作業機の型式・区分を、作業機に貼付してあるネームプレートで確認し（「11.2.2 ネームプレートの位置」（50ページ）を参照）、該当箇所をお読みください。



目次

はじめに

目次

1 安全について

1.1 警告文の定義	4
1.2 その他の注意補足等	4
1.3 安全に作業をするために	4
1.3.1 一般的な注意事項	4
1.3.2 取付け・取外しの注意事項	7
1.3.3 移動・作業時の注意事項	8
1.3.4 保守・点検・調整時の注意事項	11
1.3.5 格納時の注意事項	12
1.4 警告ラベルの種類と位置	13
1.5 注意銘板とその他のラベルの種類と位置	14

2 概要と各部の名称

2.1 概要	15
2.2 トラクタとの関係	15
2.3 主要諸元	16
2.4 各部の名称	17

3 製品の確認

4 取付ける前に

4.1 トラクタの準備	18
4.1.1 標準3点リンク直装	18
4.1.2 OS/S シリーズ	
OL/L シリーズ	19

5 取付けについて

5.1 取付けの注意事項	19
5.2 トラクタへの取付け	20
5.2.1 標準3点リンク直装	20
5.2.2 OS/S シリーズ	21
5.2.3 OL/L シリーズ	26

6 調整について

6.1 調整時の注意事項	30
6.2 水平調整	30
6.2.1 自動水平装置付トラクタ	30
6.2.2 自動水平装置のないトラクタ	30
6.3 左右振り調整	30

6.4 最上げ位置の調節	31
6.5 地上高が不足する場合	31

7 移動・ほ場への出入りと作業

7.1 移動・作業時の注意事項	32
7.2 移動のしかた	33
7.3 作業のしかた	35
7.3.1 耕うん方法	35
7.4 上手な作業のしかた	35
7.4.1 耕深調整	35
7.4.2 前後角度調整	35
7.4.3 土飛び防止板の調整	36

8 取外しについて

8.1 取外しの注意事項	36
8.2 標準3点リンク直装	36
8.3 OS/S シリーズ	38
8.4 OL/L シリーズ	41

9 保守・点検

9.1 保守・点検時の注意事項	43
9.2 ボルト・ナットのゆるみ点検	43
9.3 シャーボルトの点検と交換	43
9.3.1 シャーボルトの点検	43
9.3.2 シャーボルトの交換	43
9.4 グリースの補充	45
9.4.1 EL61・EL62 カブラ (OL/L シリーズ)	45
9.4.2 土飛び防止板	45
9.5 消耗部品の交換	45
9.5.1 ビーム	45
9.5.2 反転ボード	45
9.5.3 ウィング	46
9.5.4 サイドバー	47
9.5.5 先金	47
9.5.6 スクレーパーゴム	48

10 格納について

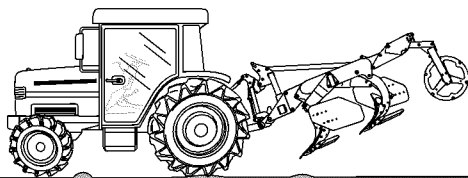
	49
--	----

11 保証とサービスについて

11.1 保証について	50
11.2 アフターサービスについて	50
11.2.1 修理を依頼される時	50
11.2.2 ネームプレートの位置	50
11.3 補修部品と供給年限について	50

12 用語と解説

	51
--	----



1 安全について

1.1 警告文の定義

この取扱説明書で使用している表示を以下に示します。

危害、財産への損害を未然に防止するための安全に関する重大な内容を記載しています。

表示の内容をよく理解してから本文を読み、記載事項を守ってください。

◆表示の説明

 危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高い状態を示します。
 警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことがあり得る状態を示します。
 注意	その警告文に従わなかった場合、軽傷または中程度の傷害を負うかもしれない状態を示します。

1.2 その他の注意補足等

◆注意補足の説明

重要	その警告文に従わなかった場合、作業機やトラクタの損傷、故障のおそれがあるものを示します。
環境	環境保護のために知っておいていただきたいことや、守っていただきたいことを記載しています。
注記	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

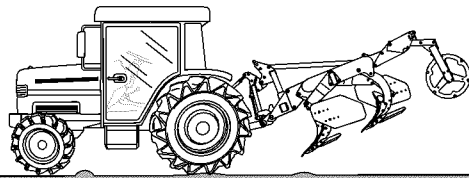
1.3 安全に作業をするために

ここに記載している警告文を守らないと、死亡・傷害事故や、作業機やトラクタの損傷をまねくおそれがあります。よく読んで、作業を行う場合は十分注意してください。

1.3.1 一般的な注意事項

 警告	
こんなときは運転しない	
● 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により作業に集中できないとき ● 酒を飲んだとき ● 妊娠しているとき ● 年少者や運転の未熟な人	
【守らないと】傷害事故をまねくおそれがあります。	





⚠ 警告

作業に適した服装をする

ヘルメット・すべり止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない服装をしてください。
はちまき・首巻き・腰タオルは禁止です。

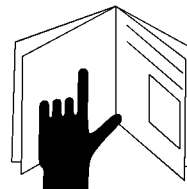
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



本作業機を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、必ず使用前に取扱説明書を読むように指導してください。

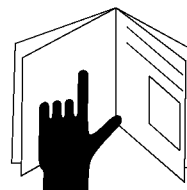
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



本作業機を他人に譲り渡すときは取扱説明書を付ける

本作業機と一緒に取扱説明書を渡し、必ず読むように指導してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

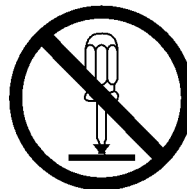


作業機の改造禁止

改造をしないでください。保証の対象になりません。

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

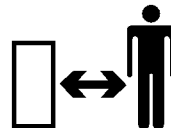
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



トラクタと作業機の周りに人（特に子供）を近づけない

トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

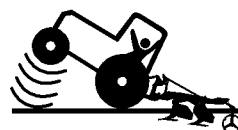


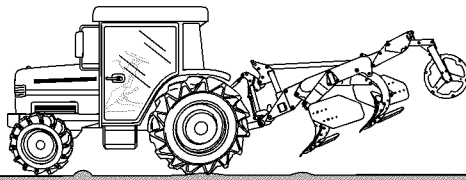
重量バランスの調整をする

・トラクタに重い作業機やアタッチメントを装着するときは、前輪分担荷重が全重の20%以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。

・トラクタの取扱説明書や販売店の指示に従って、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください。

【守らないと】傷害事故や作業機やトラクタの損傷をまねくおそれがあります。





⚠ 注意

交通法規を順守する

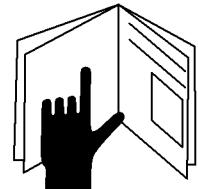
トラクタに作業機を装着した状態では、「道路運送車両法の保安基準」に適合していなければ道路走行することはできません。トラクタと作業機の組み合わせごとに「保安基準」に適合していることの確認が必要です。

【守らないと】道路運送車両法違反となります。また、傷害事故をまねくおそれがあります。

トラクタの取扱説明書をよく読む

必ずトラクタの取扱説明書をよく読み、理解してください。

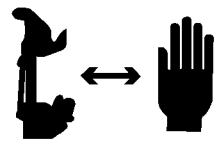
【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

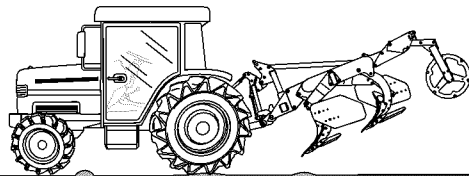


カブラのハンドルには絶対に手を触れない (OS/S シリーズ、OL/L シリーズ)

作業機の取付け・取外しのとき以外は、絶対にカブラのハンドルには手を触れないでください。また、必ずロックピン（ストッパー）をかけ、カブラのハンドルをロックしてください。

【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。





1.3.2 取付け・取外しの注意事項

⚠ 警告

作業機の下にもぐったり、足を入れたりしない

作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業機を取付け・取外しは、平らな場所で行う

平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。

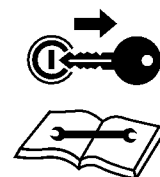
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業機を取付け・取外しは、エンジンを停止して行う

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業機を取外しは、スタンドを取付けて行う

作業機をトラクタから取外す前に、必ずスタンドを取付けてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、作業機の損傷をまねくおそれがあります。

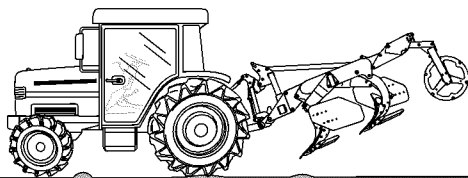


⚠ 注意

必ず当社指定のカプラを使用する（OS/S シリーズ、OL/L シリーズ）

ES50 カプラ（OS/S シリーズ）、EL61・EL62 カプラ（OL/L シリーズ）以外は使用しないでください。

【守らないと】取付けができなかったり、ケガ・作業機やトラクタの損傷の原因となります。

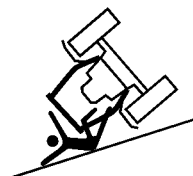


1.3.3 移動・作業時の注意事項

⚠ 警告

急発進、急加速、高速走行、急制動、急旋回はしない

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



運転者以外の人や物をトラクタや作業機に乗せて運ばない

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業機の下にもぐったり、足を入れたりしない

作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。

【守らないと】何かの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。



周囲の人や物に注意して走行する

トラクタに作業機が付いていると、後ろが長く、横幅が広がります。周囲の人や物に注意して走行してください。

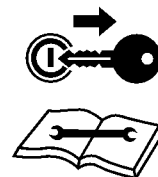
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



積込み、積降しは、サイドブレーキをかけ、車止めをして行う

積込み、積降しをするときは、平らで交通の邪魔にならない場所でトラックのエンジンを止めます。動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。

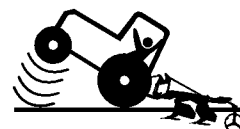
【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。



あぜ越えや段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用する

あぜ越えや段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用して、地面に接しない程度に作業機を下げ、重心を低くしてください。

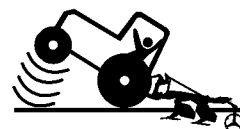
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

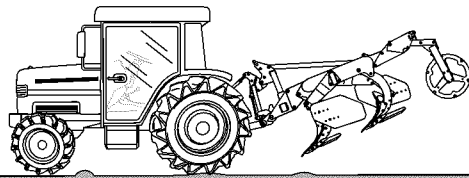


アユミ板は、強度・長さ・幅の十分あるものを使用する

使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めの付いているものを選んでください。長さの目安は荷台高さの4倍、またはあぜや段差の4倍です。

【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。



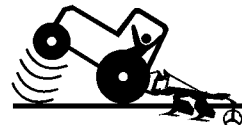


⚠ 警告

重量バランスの調整をする

- ・急な登り坂で前輪が浮き上がると、ハンドル操作ができなくなります。前輪分担荷重が全重の 20% 以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。
- ・トラクタの取扱説明書や販売店の指示に従って、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください。

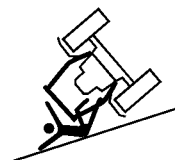
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



両側に溝や傾斜のある農道を通るときは、特に路肩に注意する

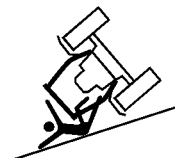
軟弱な路肩、草の茂ったところは通らないでください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



ほ場への出入りは、必ずあぜと直角に行う

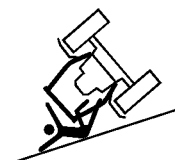
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



傾斜地では作業走行しない

作業は平坦な場所で行ってください。傾斜地での作業は、転倒のおそれがあり大変危険です。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



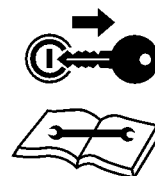
作業機は、絶対に素手で触れたり、足でけったりしない

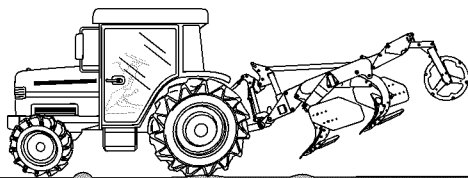
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機の損傷につながるおそれがあります。

作業機やトラクタに巻き付いた草などを取るときはエンジンを停止する

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】作業機やトラクタに巻き込まれて、死亡事故や重傷を負うおそれがあります。



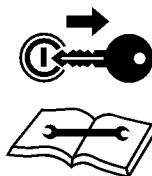


⚠ 警告

作業機の調整はエンジンを停止して行う

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



⚠ 注意

異常が発生したら、すぐにエンジンを停止し、点検を行う

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

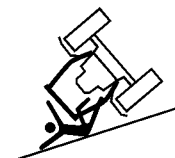
【守らないと】他の部分へ損傷がひろがり、事故につながるおそれがあります。



あぜ際での作業は、低速で余裕をもって運転する

あぜに作業機をぶつけないように、低速で余裕をもって運転してください。

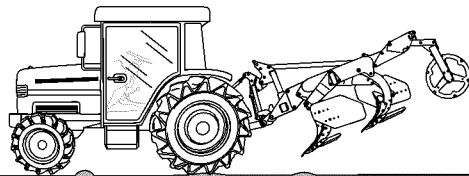
【守らないと】傷害事故や作業機の損傷につながるおそれがあります。



草やゴミを路上に落とさない

作業中や作業後に、草やゴミを路上に落とさないでください。

【守らないと】道路交通法違反になるだけでなく、事故を引き起こすおそれがあります。



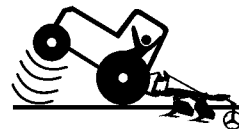
1.3.4 保守・点検・調整時の注意事項

⚠ 警告

作業は平らで安定した場所で行う

- ・交通の邪魔にならない場所で行ってください。
- ・作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
- ・トラクタの車輪には車止めをしてください。

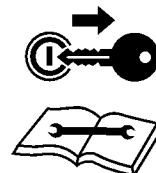
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業はエンジンを停止して行う

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックする

作業機が下がることを防止するため、トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



異常を見つけたら、速やかに修理する

変形、損傷などの異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



⚠ 注意

目的に合った工具を正しく使用する

点検・整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。

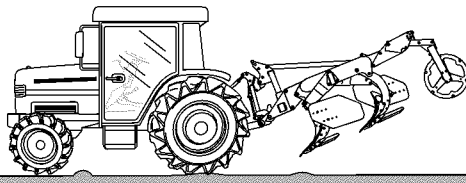
【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。



作業時は、厚手の手袋を着用し、手を保護する

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。





1.3.5 格納時の注意事項

⚠ 注意

平らで固い場所に格納する

雨や風が当たらず、平らで固い場所を選んでください。

【守らないと】作業機の転倒などにより、傷害事故や作業機の損傷につながります。



作業機単体の転倒防止をする

スタンドのキャスターにストッパーをかけて、ころがり防止をしてください。

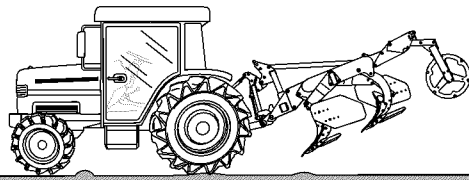
【守らないと】作業機の転倒などにより、傷害事故や作業機の損傷につながります。



トラクタから取外したカプラを作業機に取付けて格納しない (OS/S シリーズ、OL/L シリーズ)

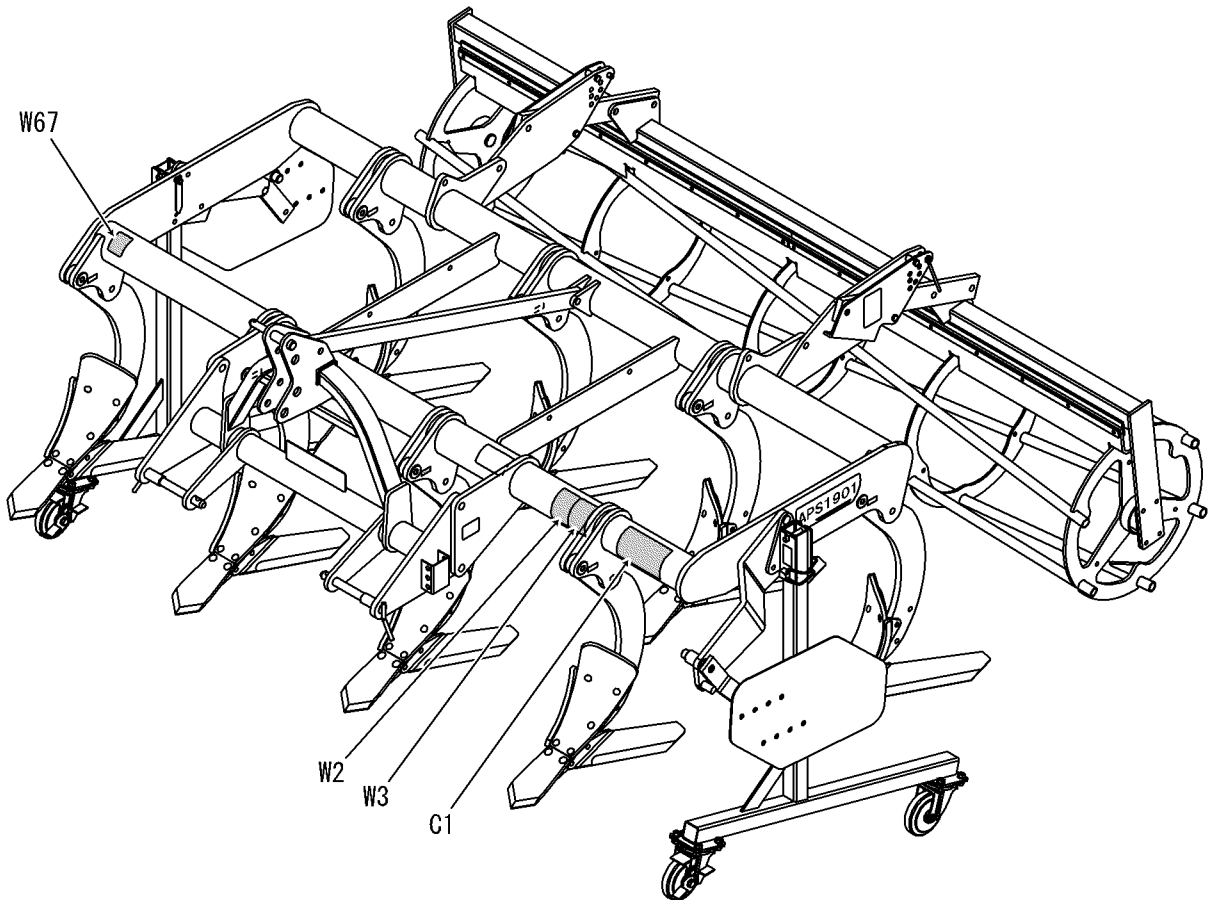
カプラをトラクタから取外した場合、取外したカプラを作業機に取付けて格納しないでください。

【守らないと】カプラが落下し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

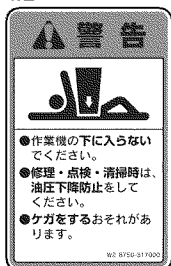


1.4 警告ラベルの種類と位置

- 警告ラベルはイラストの位置に貼ってあります。よくお読みになり安全に作業をしてください。
- 警告ラベルは、汚れや土を落とし、常に見えるようにしてください。
- 警告ラベルを紛失または損傷された場合には、お買い上げいただいた購入先へ、型式および部品番号で注文してください。



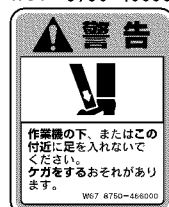
W2 8750-317000



W3 8750-326000

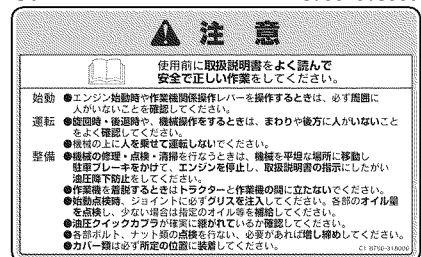


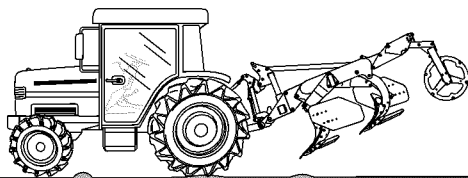
W67 8750-466000



C1

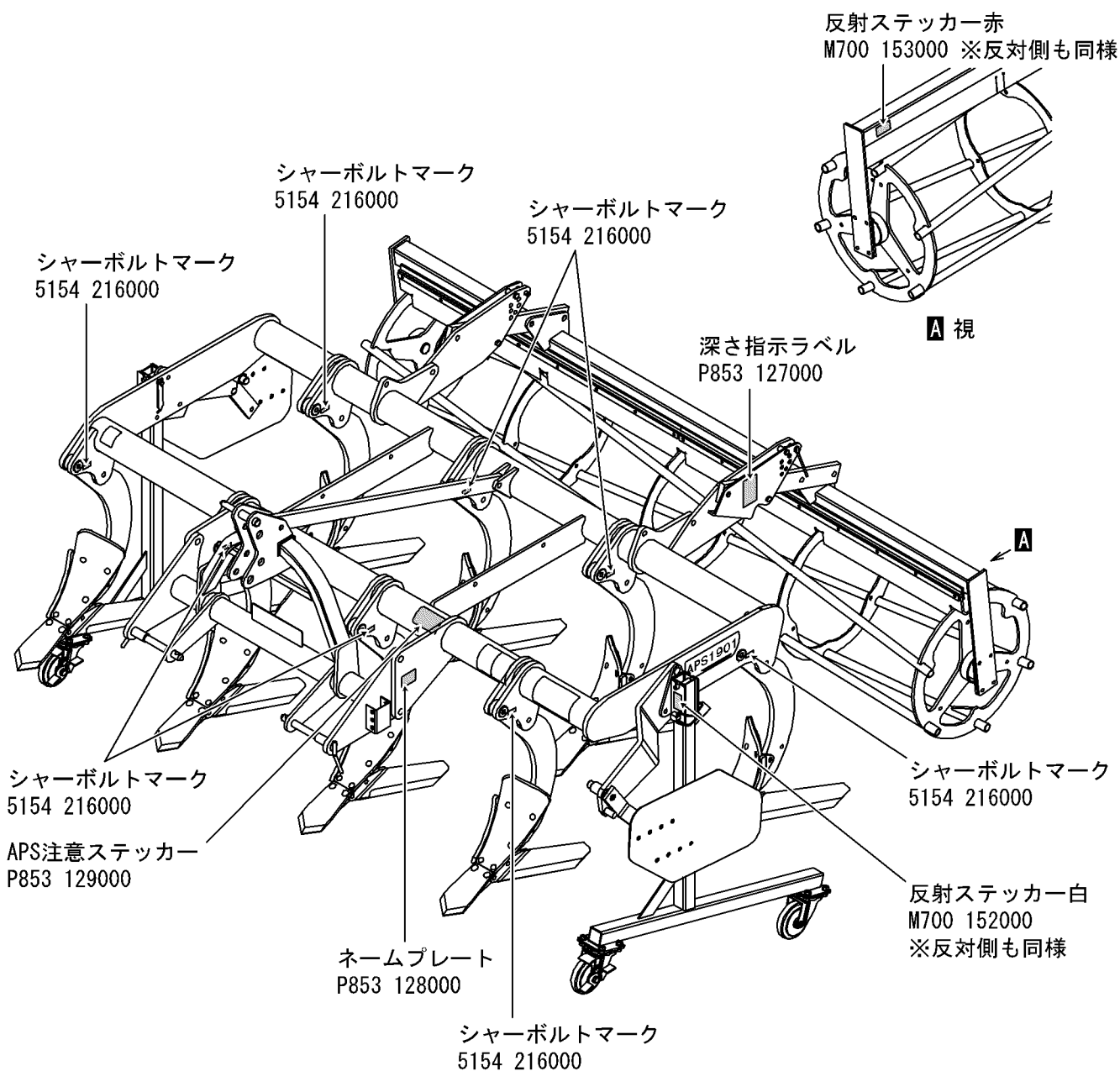
8750-318000

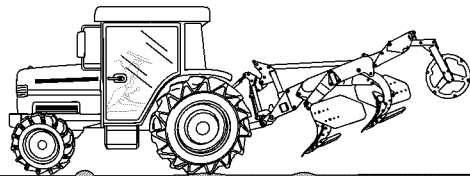




1.5 注意銘板とその他のラベルの種類と位置

- 注意銘板とその他のラベルはイラストの位置に貼ってあります。
- 注意銘板とその他のラベルは、汚れや土を落とし、常に見えるようにしてください。
- 注意銘板とその他のラベルを紛失または損傷された場合には、お買い上げいただいた購入先へ、型式および部品番号で注文してください。



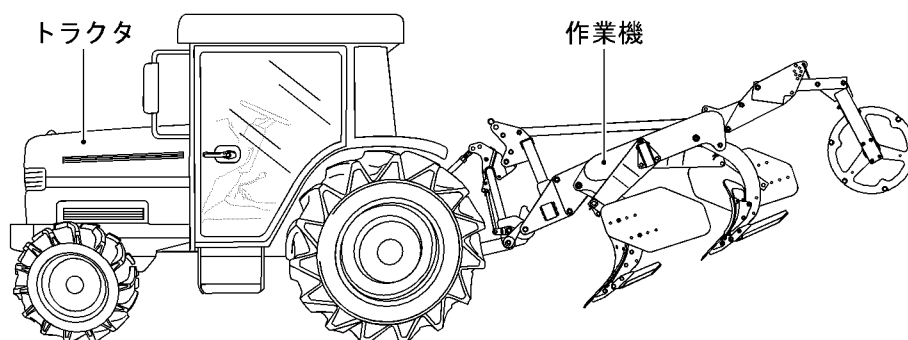


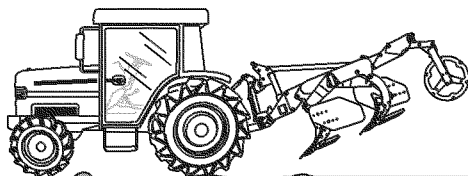
2 概要と各部の名称

2.1 概要

- 本作業機は、水田収穫後の簡易耕うんに使用してください。
- 本作業機は、「標準3点リンク」で設計しています。他の規格では取付けができません。
- 本作業機は、決められた適応馬力で設計しています。適応トラクタ馬力の範囲内で使用してください。

2.2 トラクタとの関係





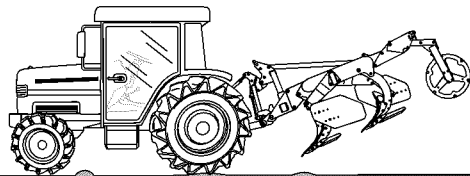
2.3 主要諸元

型式・区分		1901	1901 -OS	1901 -OL	1901 -S	1901 -L	1901T	1901T -OS	1901T -OL	1901T -S	1901T -L
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2320									
	全 幅 (mm)	2025									
	全 高 (mm)	1200									
機体質量 (kg)		475			500	510	475			500	510
適応トラクタ馬力 {kW(PS)}		29.5 (40) ~ 55 (75)									
装 着 方 法	JIS1・2 直装	日農工標準オートヒッチ				JIS1・2 直装	日農工標準オートヒッチ				
		OS クミカエキット付属					OS クミカエキット付属				
		—	—	Sカブラ 付属	Lカブラ 付属		—	—	Sカブラ 付属	Lカブラ 付属	
作業能率 (分／10a)		6 ~ 11									
ビーム本数		6									
作業幅 (cm)		190									
作業深さ (cm)		8 ~ 25									
作業速度 (km/h)		4 ~ 8									
反転ボード仕様		樹脂ボード					スチールボード				

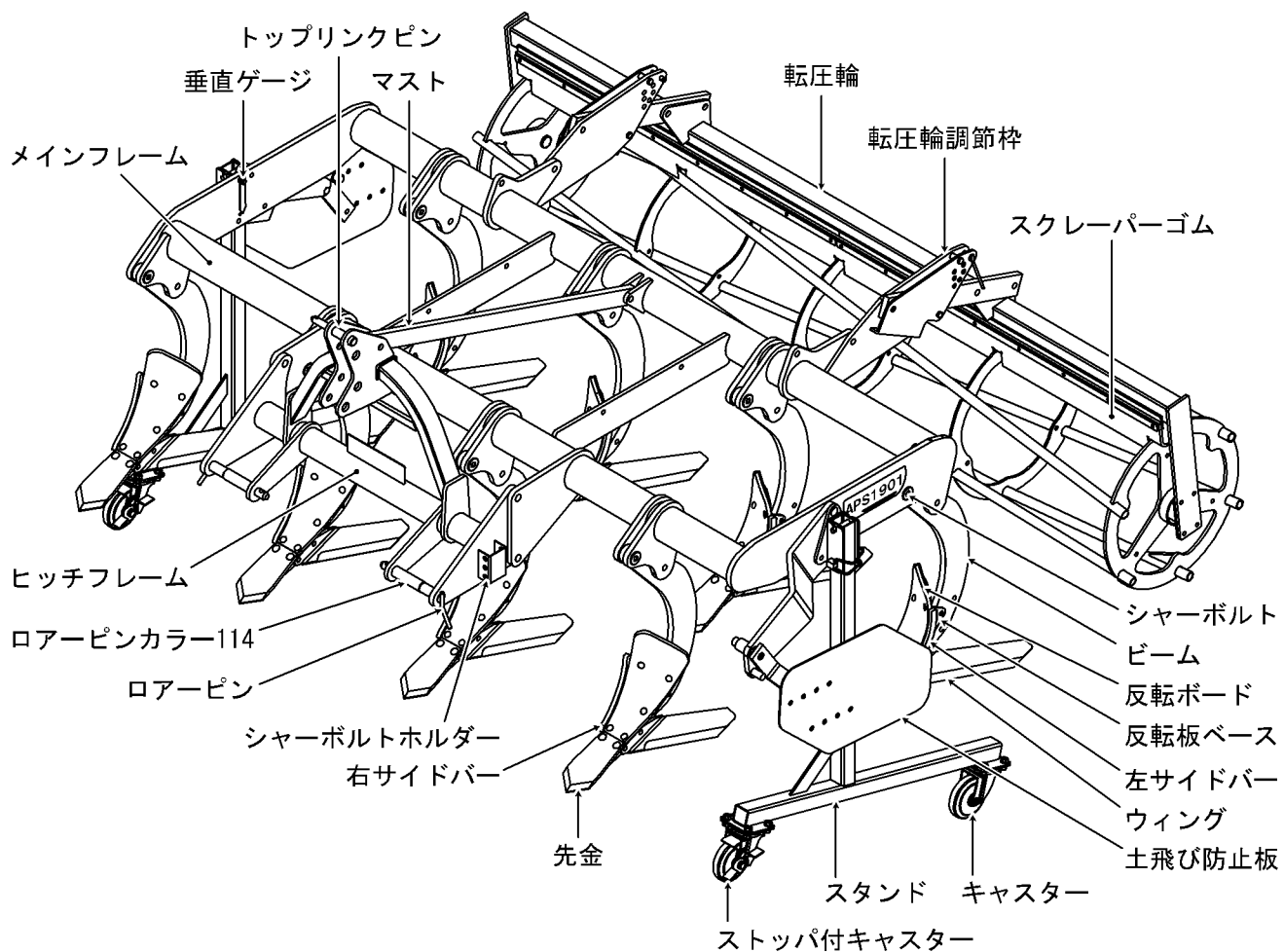
- ※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。
 ※ 作業深さ、作業能率は目安です。ほ場条件により異なります。
 ※ 機体質量にスタンドは含まれません。

型式・区分		2501[Z]	2501-OL[Z]	2501-L[Z]	2501T[Z]	2501T-OL[Z]	2501T-L[Z]
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2320					
	全 幅 (mm)	2625					
	全 高 (mm)	1200[1230]					
機体質量 (kg)		565[575]		600[610]	565[575]		600[610]
適応トラクタ馬力 {kW (PS)}		44 (60) ~ 84 (115)					
装 着 方 法	JIS1・2 直装	日農工標準オートヒッチ		JIS1・2 直装	日農工標準オートヒッチ		
		OS クミカエキット付属			OS クミカエキット付属		
		—	L カプラ 付属		—	L カプラ 付属	
作業能率 (分/10a)		4 ~ 8					
ビーム本数		8					
作業幅 (cm)		250					
作業深さ (cm)		8 ~ 25					
作業速度 (km/h)		4 ~ 8					
反転ボード仕様		樹脂ボード			スチールボード		

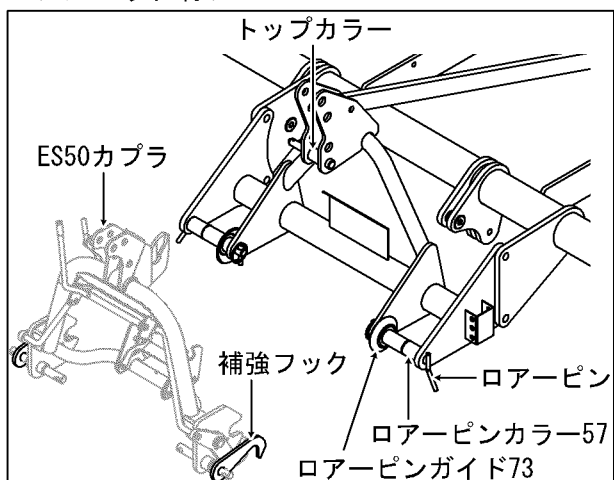
- ※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。
 ※ 作業深さ、作業能率は目安です。ほ場条件により異なります。
 ※ 機体質量にスタンドは含まれません。
 ※ []内は公道走行部品付型式および、その諸元を示します。



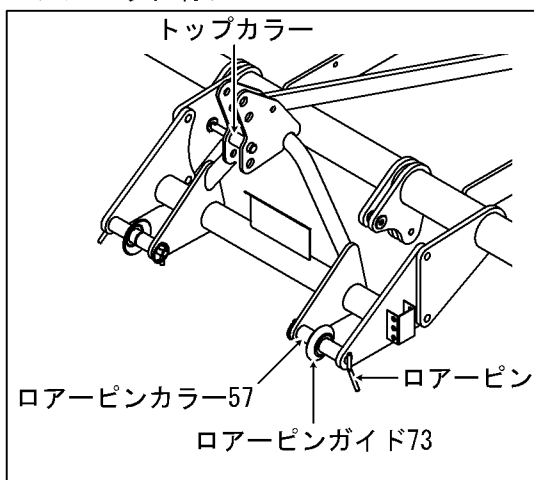
2.4 各部の名称

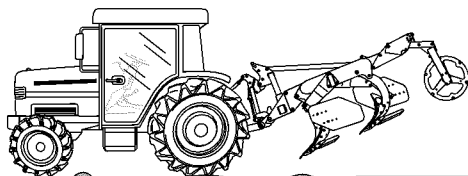


<Sカプラ仕様>



<Lカプラ仕様>





3 製品の確認

1 組ごとに厳重な検査をしたうえで出荷していますが、輸送中の損傷、物品の欠品、およびその他の異常の可能性も皆無ではありません。下表の事項も含めて確認してください。

もし、問題があった場合は、お買い上げの購入先へ連絡してください。

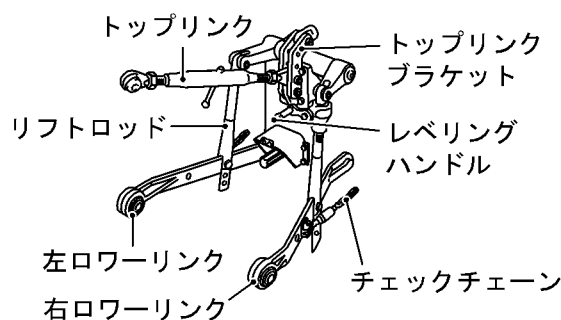
確認箇所	確認方法
ご注文の品物かどうか	「11.2.2 ネームプレートの位置」(50 ページ)を参照し、ネームプレートで確認
ネームプレート、警告ラベルが剥がれていないか	「1.4 警告ラベルの種類と位置」(13 ページ)、 「11.2.2 ネームプレートの位置」(50 ページ)を参照し、目視によるチェック
損傷はないか	目視による外観チェック
スタンド、付属品、取扱説明書(本書)、組立要領書、保証書	目視によるチェック

4 取付ける前に

4.1 トラクタの準備

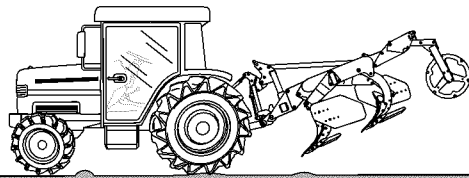
⚠ 注意

- トラクタの取扱説明書をよく読んでください。
【守らないと】取付けができなかったり、傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながったりするおそれがあります。



4.1.1 標準 3 点リンク直装

- 作業機の装着は「標準 3 点リンク規格」です。トラクタの 3 点リンクも標準 3 点リンクでないと装着できません。
- トラクタが特殊 3 点リンク規格の場合は、特殊 3 点リンク用 トップリンク ブラケットを外し、トップリンクを標準 3 点リンク用のものに交換してください。両側にねじの付いたもので、長短の調整のできるものを使用してください。リフトロッドの位置は、ロワーリンクの前穴に取付けます。
- 作業機の上がり量、下がり量が不足する場合は、リフトロッドの取付穴位置を上下の穴に移して、調整してください。
 - ・上の穴は上がり量が増えます。
 - ・下の穴は下がり量が増えます。



4.1.2 OS/S シリーズ OL/L シリーズ

- (a) カプラは「標準 3 点リンク規格」です。トラクタの 3 点リンクも標準 3 点リンクでないと装着できません。
- (b) トラクタが特殊 3 点リンク規格の場合は、特殊 3 点リンク用トップリンクブラケットを外し、トップリンクを標準 3 点リンク用のものに交換してください。両側にねじの付いたもので、長短の調整のできるものを使用してください。リフトロッドの位置は、ロワーリンクの前穴に取付けます。
- (c) 作業機の上がり量、下がり量が不足する場合は、リフトロッドの取付け位置を上下の穴に移して、調整してください。
- ・上の穴は上がり量が増えます。
 - ・下の穴は下がり量が増えます。

5 取付けについて

5.1 取付けの注意事項

⚠ 警告

- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。
- 平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。
- 作業機を取付けるときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

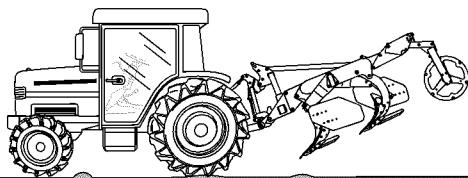
- トラクタに重い作業機やアタッチメントを装着するときは、前輪分担荷重が全重の 20% 以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。
- トラクタの取扱説明書や販売店の指示に従って、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください。

【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷をまねくおそれがあります。

⚠ 注意

- トラクタの取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】取付けができなかったり、傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながったりするおそれがあります。



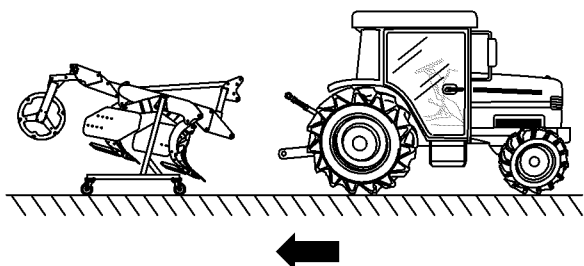
5.2 トラクタへの取付け

5.2.1 標準 3 点リンク直装

- 1** トラクタを作業機を中心に合わせ、まっすぐ後進させます。

注 記

- 位置が合わないときは、作業機を手で動かして合わせてください。



- 2** トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

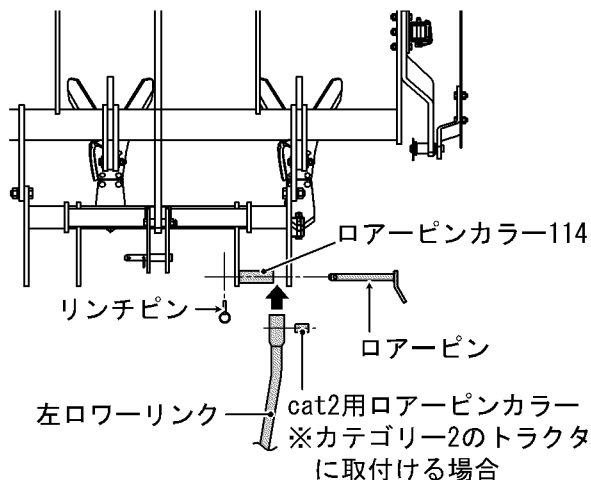
- 3** トラクタの左ロワーリンクを、作業機の左ヒッチアームにロアーピンで取付けます。

⚠ 注意

- 必ずリンチピンで抜け止めをしてください。
【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

注 記

- カテゴリ-2 のトラクタに取付ける場合は、cat2 用ロアーピンカラーを入れてください。



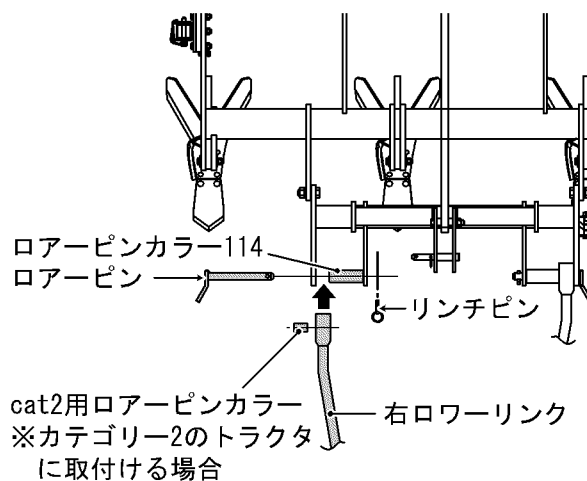
- 4** トラクタの右ロワーリンクを、作業機の右ヒッチアームにロアーピンで取付けます。

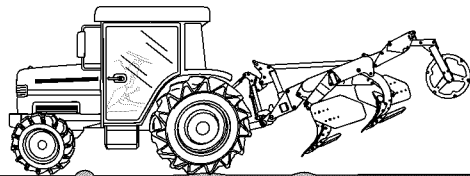
⚠ 注意

- 必ずリンチピンで抜け止めをしてください。
【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

注 記

- カテゴリ-2 のトラクタに取付ける場合は、cat2 用ロアーピンカラーを入れてください。
- 高さが合わないときは、トラクタのレベリングハンドルを回し、リフトロッドの長さを調整して取付けてください。





5

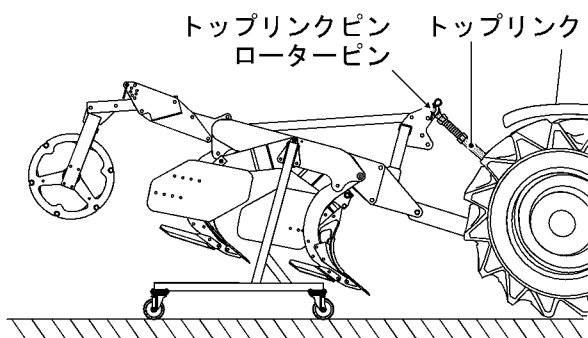
トラクタのトップリンクを、作業機のマストにトップリンクピンで取付けます。

⚠ 注意

- 必ずローターピンで抜け止めをしてください。
【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

注 記

- ・ 位置が合わないときは、トップリンクの長さを調節してください。

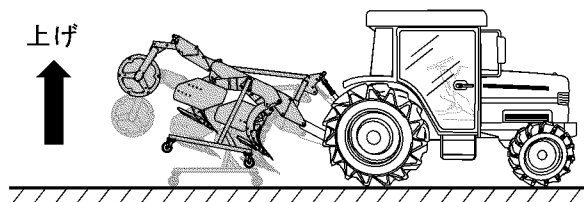


6

トラクタのエンジンをかけます。

7

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を上げて、作業機をゆっくり上げます。



8

スタンドを取外します。

5.2.2 OS/S シリーズ

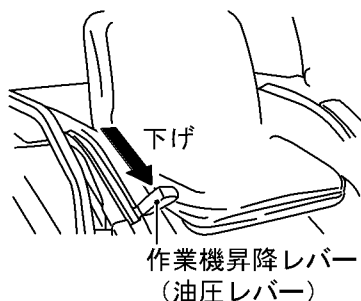
◆カブラの取付け

⚠ 注意

- ES50 カブラ以外は使用しないでください。
【守らないと】取付けができなかったり、ケガ・作業機やトラクタの損傷の原因となったりします。

1

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作し、ロワーリンクを最下げにします。



2

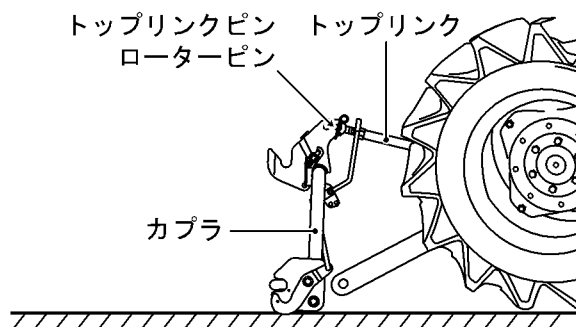
トラクタの駐車ブレーキをかけ、PT0 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

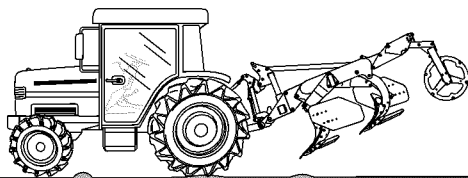
3

カブラをトラクタのトップリンクにトップリンクピンで取付けます。

⚠ 注意

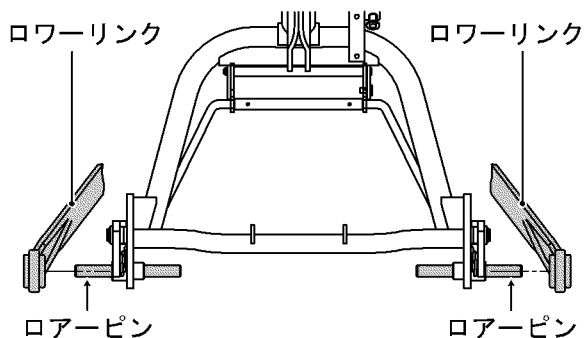
- 必ずローターピンで抜け止めをしてください。
【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。





4

トラクタの左右ロワーリンクを、カブラのロアーピンに取付けます。



5

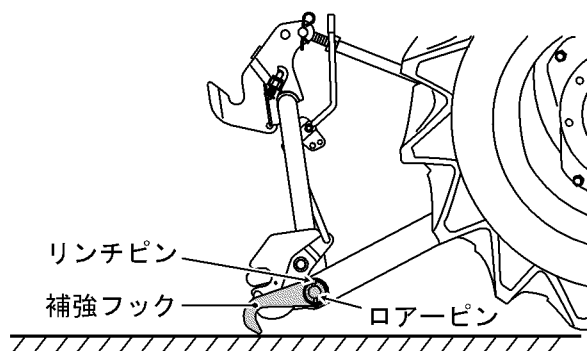
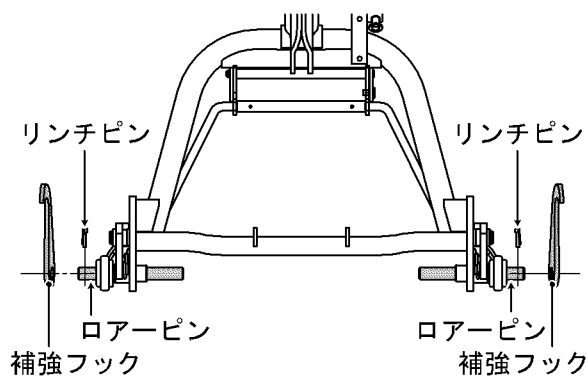
OS クミカエキット（付属品）の補強フックを、カブラのロアーピンに取付けます。

⚠ 注意

- 必ずリンチピンで抜け止めをしてください。
【守らないと】 傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

注 記

- ・ 取付位置とフックの向きを間違えないようにしてください。

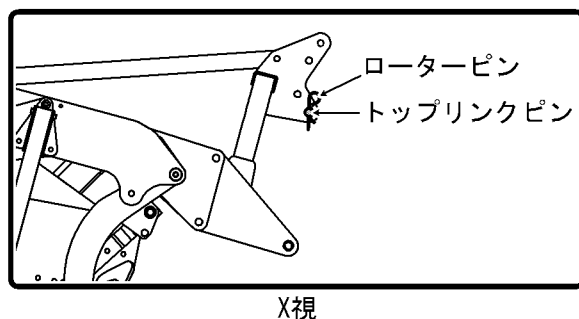
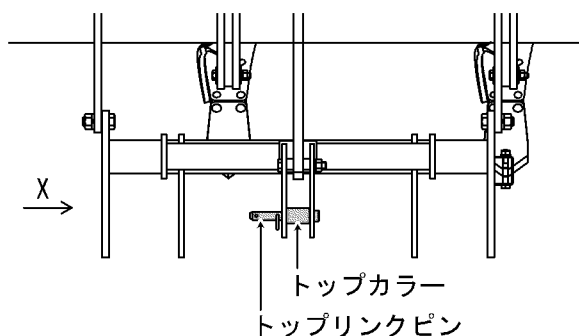


6

トップリンクピンと、OS クミカエキット（付属品）のトップカラーを、作業機のマストの一番下穴に取付けます。

⚠ 注意

- 必ずローターピンで抜け止めをしてください。
【守らないと】 傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

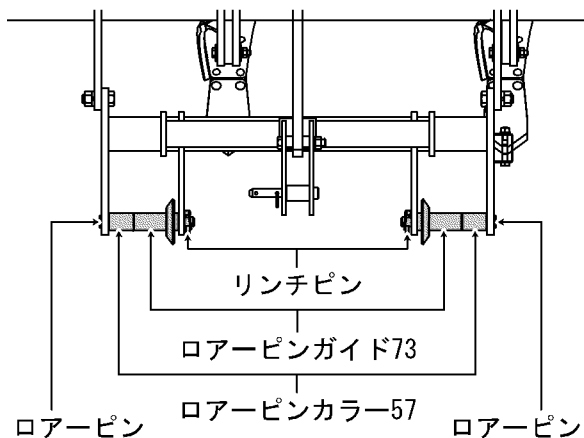
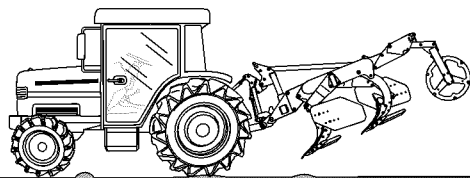


7

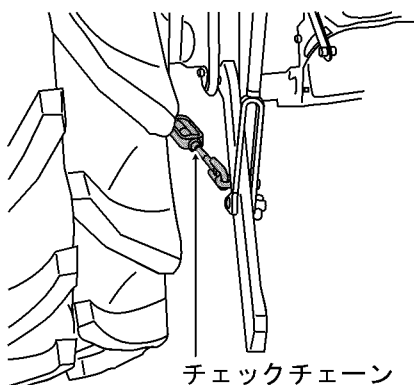
OS クミカエキット（付属品）のロアーピン、ロアーピンガイド 73、ロアーピンカラー 57 を、作業機の左右ヒッチアームに取付けます。

⚠ 注意

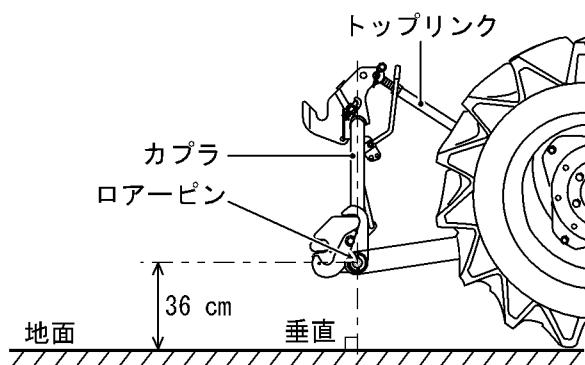
- 必ずリンチピンで抜け止めをしてください。
【守らないと】 傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



- 8** トラクタの中心に合わせ、左右均等に 10 ~ 20 mm 振れるように、チェックチェーンで振れ止めをします。

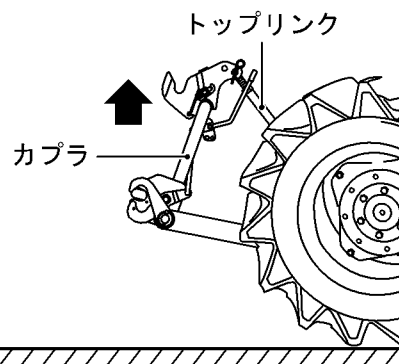


- 9** ロアーピンの地上高が 36 cm のとき、カブラが垂直になるようにトップリンクの長さを調整します。



10

取付け終了後、カブラを手で持ち上げてトップリンクなどが干渉しないことを確認します。



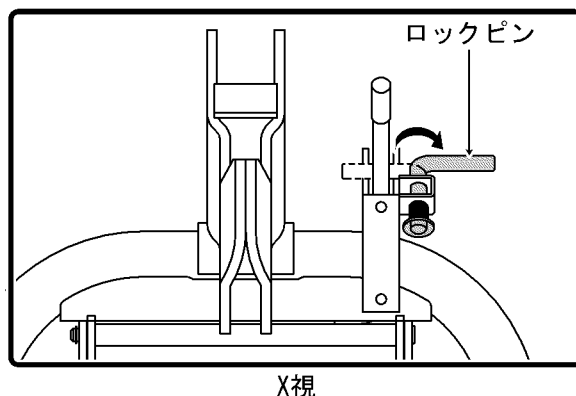
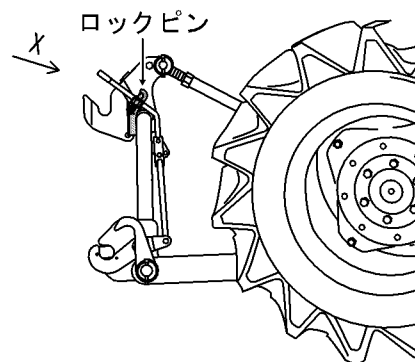
注 記

- ・ 干渉する場合は、トップリンクをトラクタ側は1個ずつ上に、また、作業機側は1個ずつ下に取付けると、カブラがトラクタから離れます。

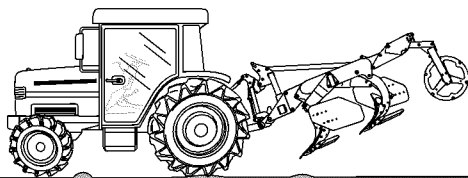
◆トラクタへの取付け

1

カブラのハンドルのロックピンを解除します。

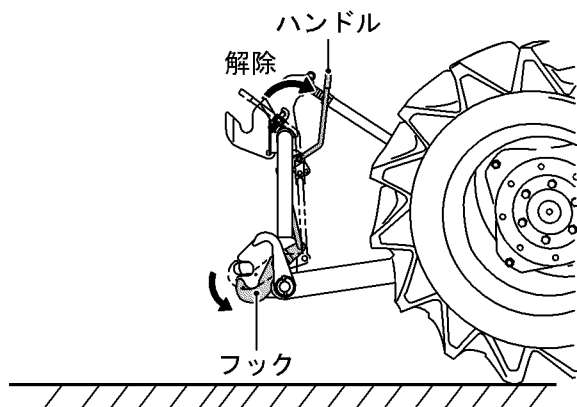


X視



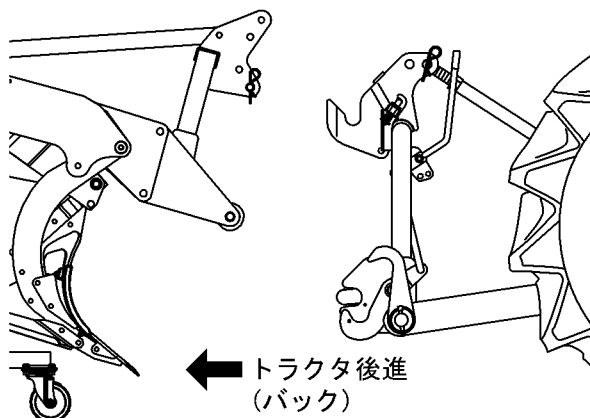
2

カプラのハンドルを引き、フックを解除します。



3

トラクタのエンジンをかけ、トラクタを作業機の中心に合わせ、まっすぐバックさせます。

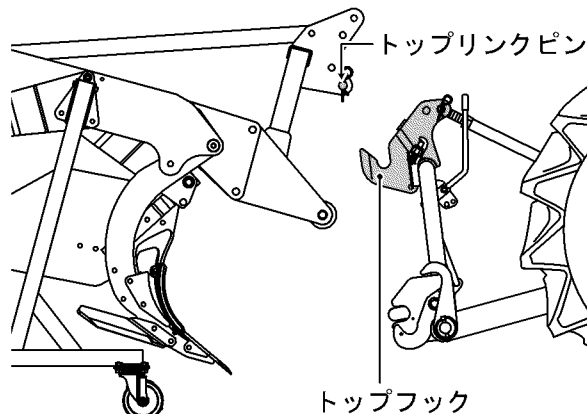
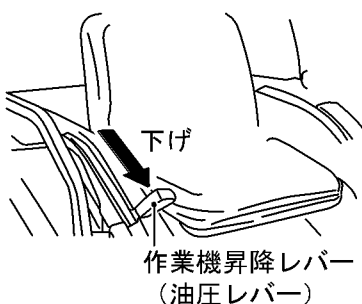


4

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、カプラのトップフックを作業機のトップリンクピンの下へくぐらせます。

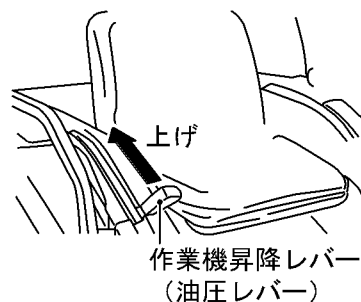
注 記

- ・ トラクタと作業機の中心が合うまで繰り返してください。
- ・ 合わせづらいときは、作業機を動かして合わせるのも1つの方法です。

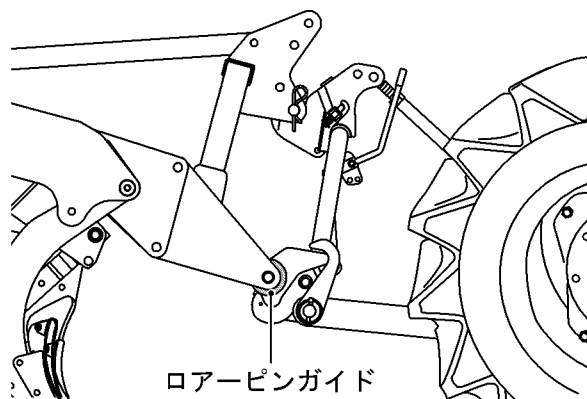


5

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）をゆっくり上げて、トップリンクピンをトップフックですくい上げます。

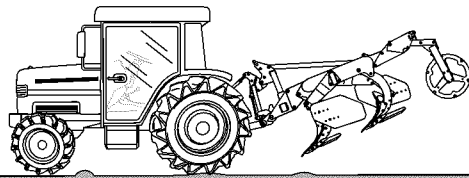


作業機のローアピンガイドがカプラに入ります。



注 記

- ・ フックが当たる場合は、トラクタの油圧を下げて作業機を外し、始めからやり直してください。
- ・ 作業機が左右に傾いているときは、トラクタの右側リフトロッドの長さを調節し、作業機の傾きにカプラの傾きを合わせてから取付けを行ってください。

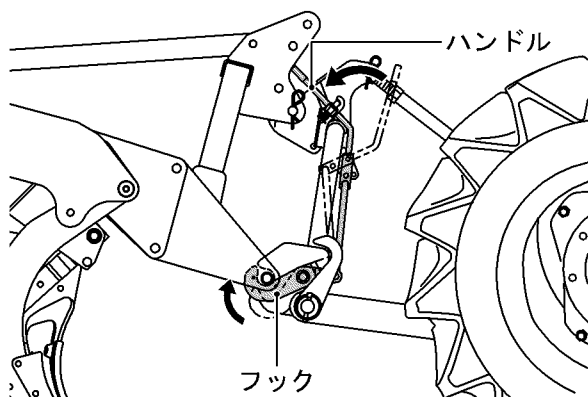


6

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

7

カプラのハンドルを押してローピンガイドをフックで固定します。



注 記

- ・ フックで上手く固定できない場合は、最初からやり直してください。

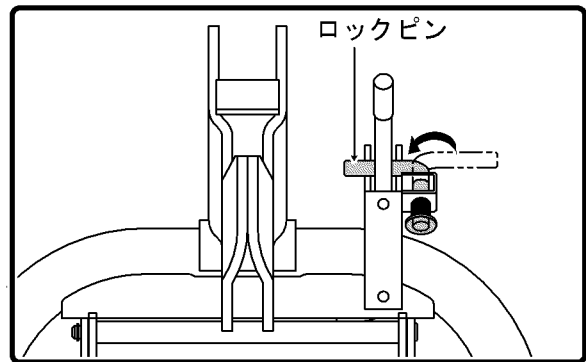
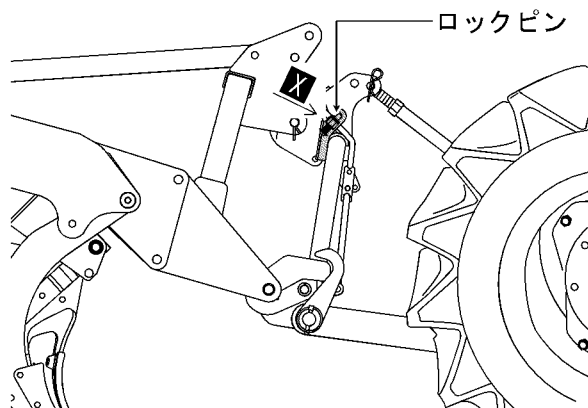
8

ロックピンを回転させて、カプラのハンドルを固定します。

⚠ 注意

- 必ずロックピンをかけ、カプラのハンドルをロックしてください。

【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。



X 視

9

スタンドを取外します。

10

トラクタのエンジンをかけ、作業機を地面に下ろします。

11

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

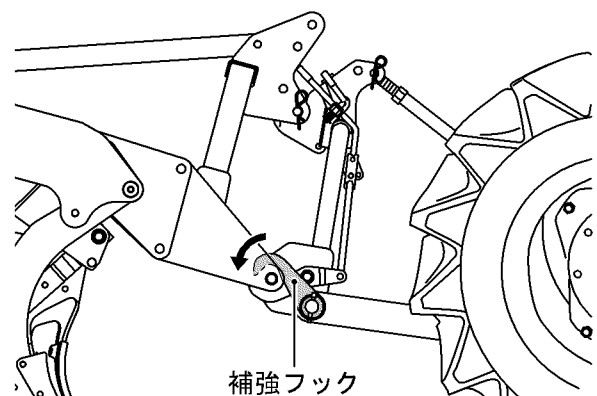
12

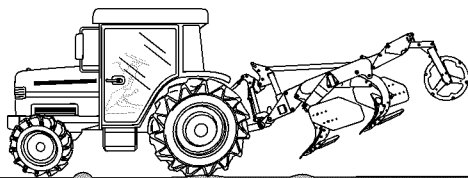
補強フックをローピンガイドにかけます。

⚠ 注意

- 必ず補強フックをかけてください。

【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。





5.2.3 OL/L シリーズ

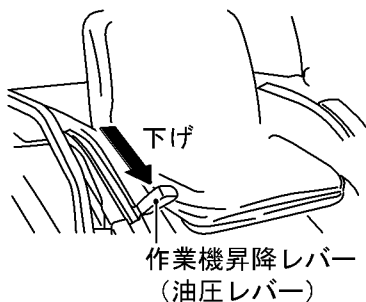
◆カブラの取付け

⚠ 注意

- EL61・EL62 カブラ以外は使用しないでください。

【守らないと】取付けができなかったり、ケガ・作業機やトラクタの損傷の原因となったりします。

- 1 トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作し、ロワーリンクを最下げにします。

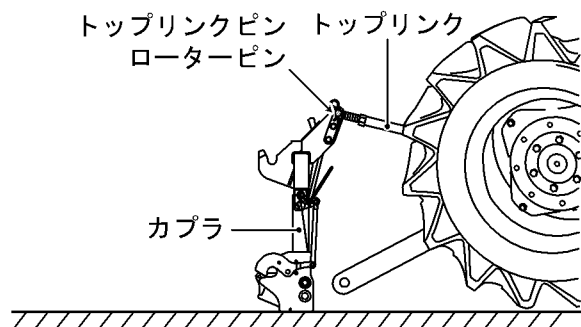


- 2 トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

- 3 カブラをトラクタのトップリンクにトップリンクピンで取付けます。

⚠ 注意

- 必ずローターピンで抜け止めをしてください。
- 【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



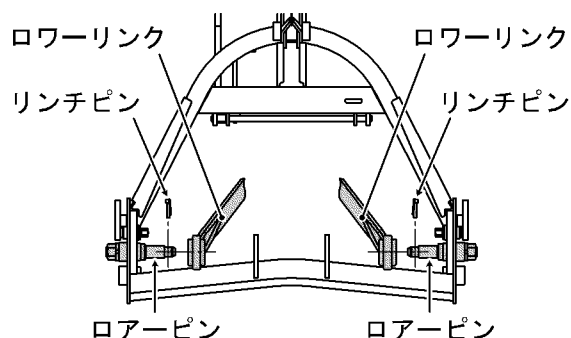
4

トラクタの左右ロワーリンクをカブラのローアーピンに取付けます。

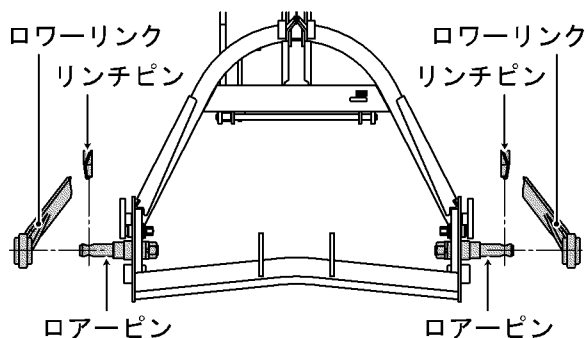
⚠ 注意

- 必ずリンチピンで抜け止めをしてください。
- 【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

■ EL61 カブラ



■ EL62 カブラ

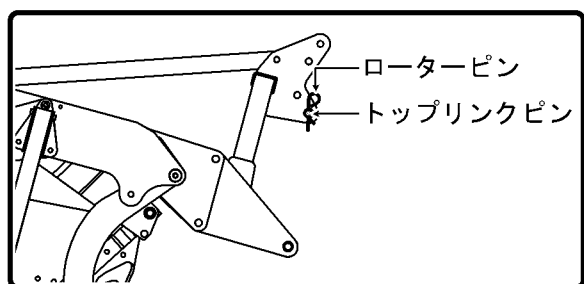
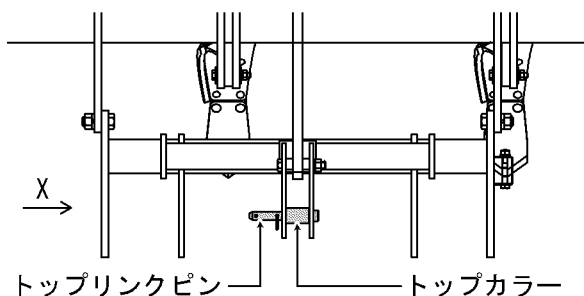
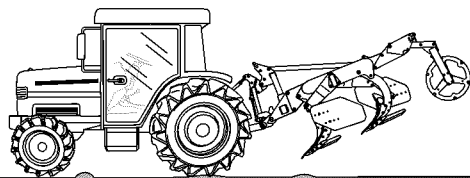


5

トップリンクピンと、OS クミカエキット（付属品）のトップカラーを、作業機のマストの下から二番目の穴に取付けます。

⚠ 注意

- 必ずローターピンで抜け止めをしてください。
- 【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

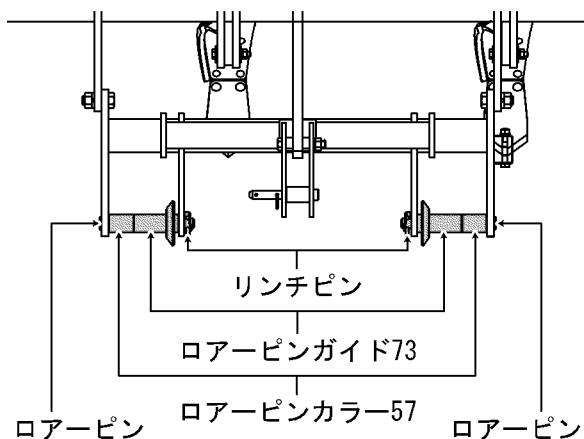


X視

- 6** OS クミカエキット (付属品) のローターピン、ローターピンガイド 73、ローターピンカラー 57 を、作業機の左右ヒッチアームに取り付けます。

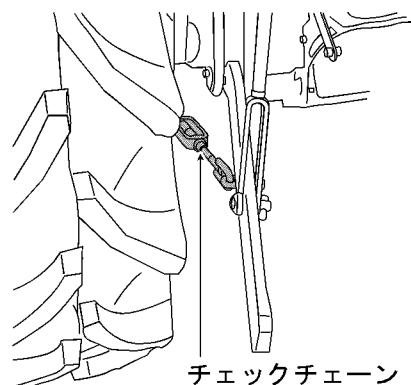
⚠ 注意

- 必ずリンチピンで抜け止めをしてください。
【守らないと】 傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



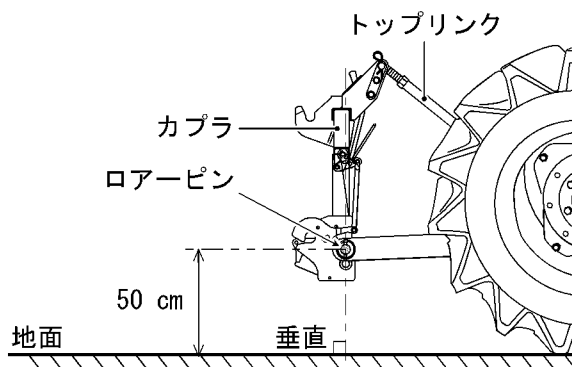
7

トラクタの中心に合わせ、左右均等に 10～20 mm 振れるように、チェックチェーンで振れ止めをします。



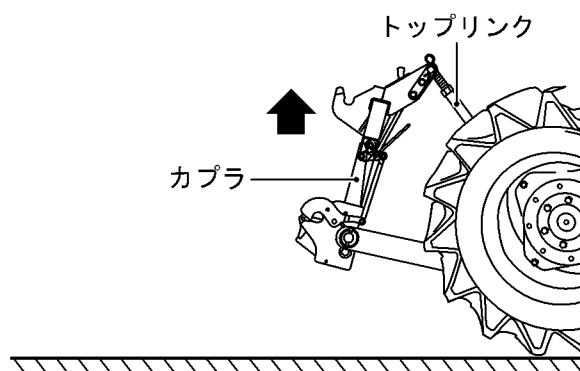
8

ローターピンの地上高が 50 cm のとき、カブラが垂直になるようにトップリンクの長さを調整します。



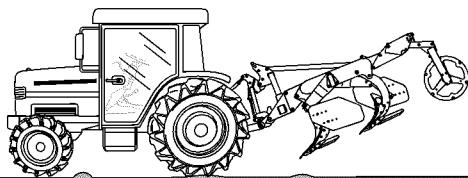
9

取付け終了後、カブラを手で持ち上げてトップリンクなどが干渉しないことを確認します。



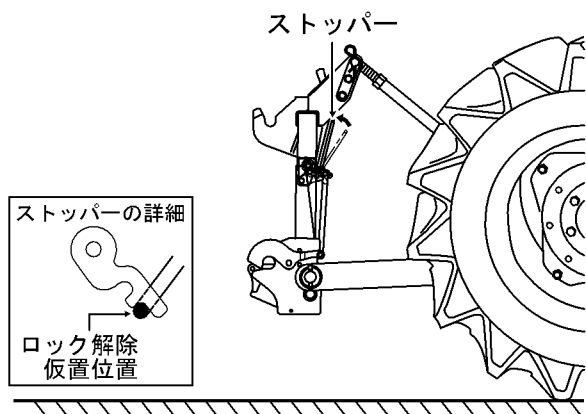
注 記

- ・ 干渉する場合は、トップリンクをトラクタ側は 1 個ずつ上に、また、作業機側は 1 個ずつ下に取付けると、カブラがトラクタから離れます。

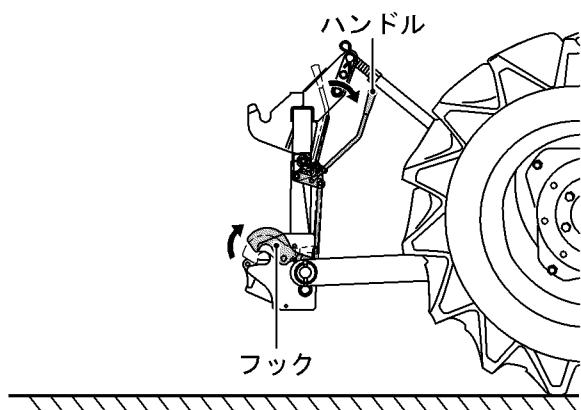


◆トラクタへの取付け

- 1** ストッパーを引き上げ、カプラのハンドルのロックを解除します。

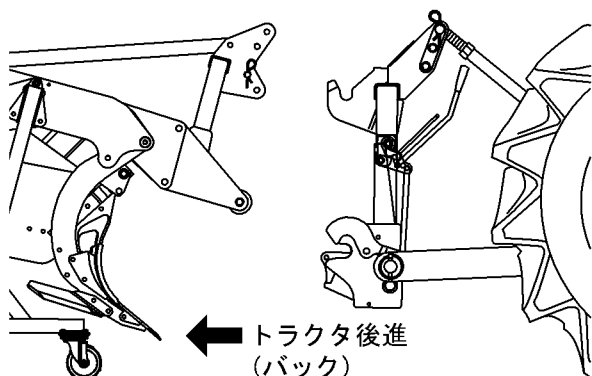


- 2** カプラのハンドルを引き、フックを解除します。



- 3** トラクタのエンジンをかけます。

- 4** トラクタを作業機を中心に合わせ、まっすぐバックさせます。

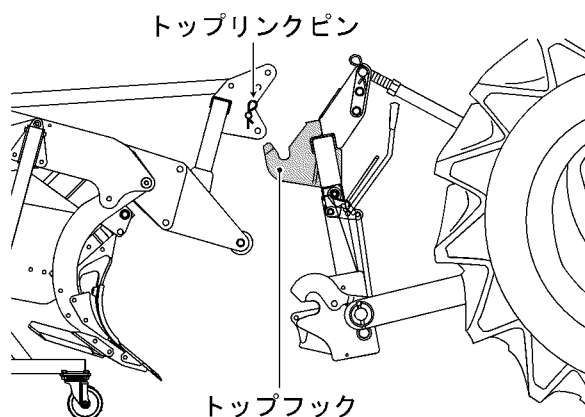
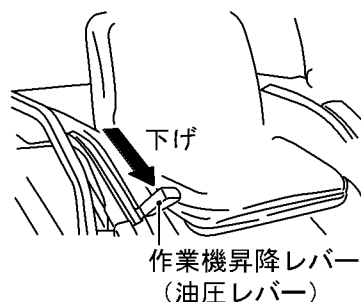


5

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、カプラのトップフックを作業機のトップリンクピンの下へくぐらせます。

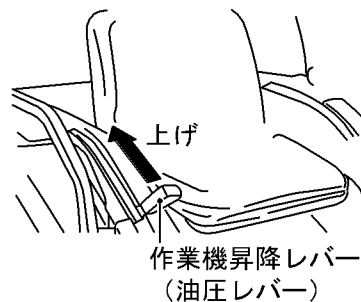
注 記

- ・ トラクタと作業機が合うまで繰り返してください。
- ・ 合わせづらいときは、作業機を動かして合わせるのも1つの方法です。

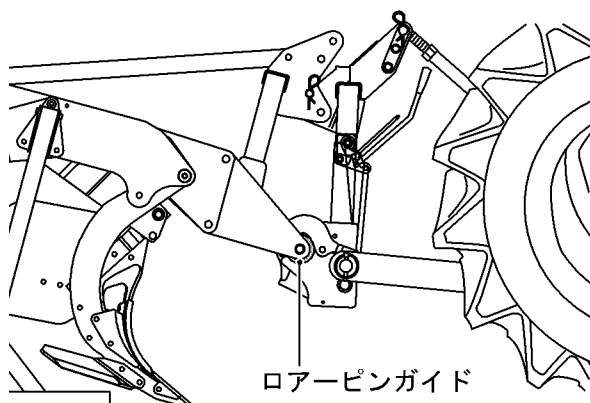
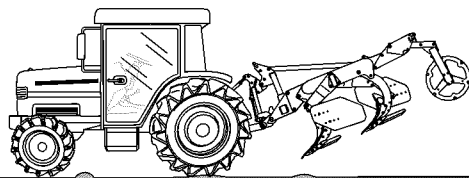


6

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）をゆっくり上げて、トップリンクピンをトップフックですくい上げます。



作業機のローアピンガイドがカプラに入ります。



注 記

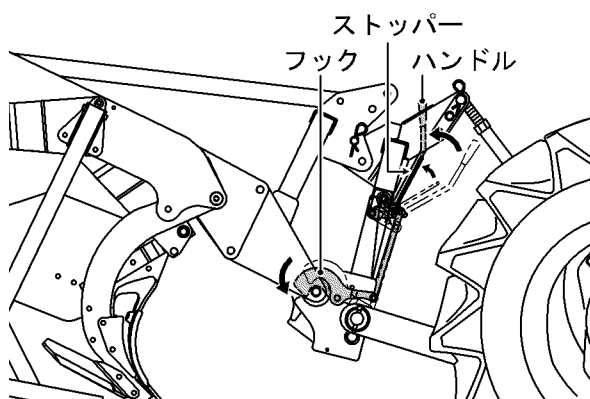
- ・ フックが当たる場合は、トラクタの油圧を下げて作業機を外し、始めからやり直してください。
- ・ 作業機が左右に傾いているときは、トラクタの右側リフトロッドの長さを調節し、作業機の傾きにカブラの傾きを合わせてから取付けを行ってください。

7

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

8

ストッパーを引き上げ、カブラのハンドルを押してロアーピンガイドをフックで固定します。

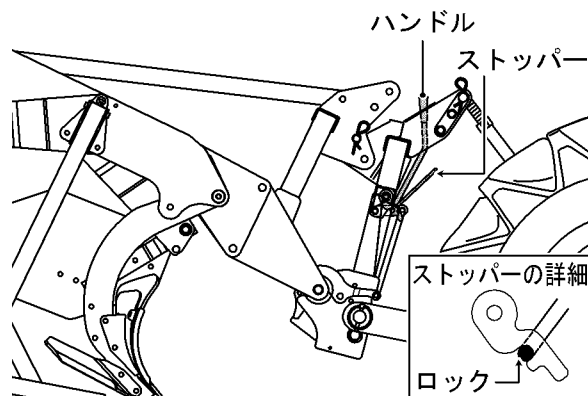


注 記

- ・ フックで上手く固定できない場合は、始めからやり直してください。

9

カブラのハンドルをストッパーでロックします。



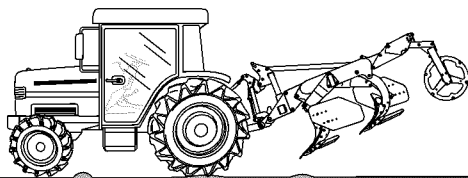
⚠ 注意

- 必ずストッパーをかけ、カブラのハンドルをロックしてください。

【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。

10

スタンドを取外します。



6 調整について

6.1 調整時の注意事項

⚠ 警告

- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
- 作業機を調整するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- 変形、損傷などの異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 厚手の手袋を着用し、手を保護してください。
- 【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。

6.2 水平調整

注 記

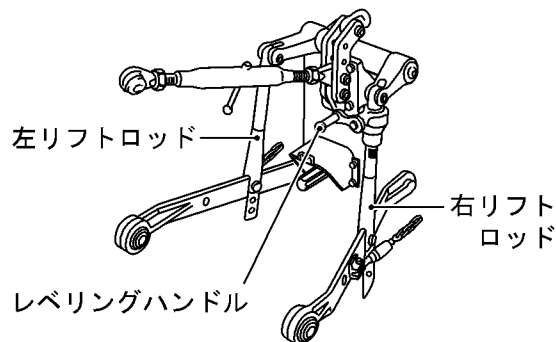
- ・ トラクタの取扱説明書をよく読んでください。
- ・ 作業機の左右がトラクタに対して水平でないと、耕深が片寄るだけでなく、直進性も悪くなります。

6.2.1 自動水平装置付トラクタ

作業機の左右がトラクタに対して水平になるように調整します。

6.2.2 自動水平装置のないトラクタ

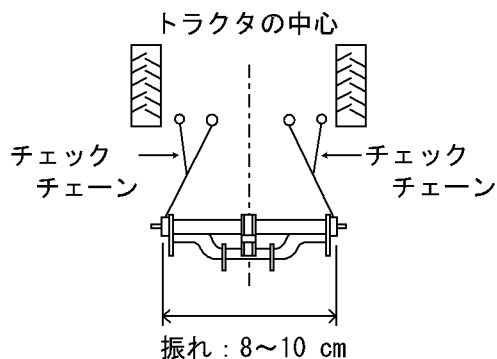
トラクタのレベリングハンドルを回して、右リフトロッドの長さを調整します。



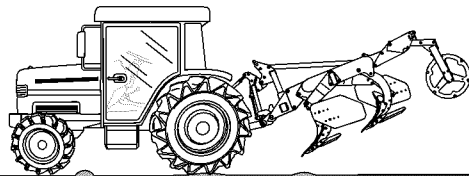
6.3 左右振り調整

作業機が左右に多少振れるように調整します。左右の振れが適正でないと、往復耕時の土の反転や放てきが左右対称にならず、表面や耕盤が凸凹になります。また、トラクタの直進性も悪くなります。

- (1) 次イラストのように、作業機をトラクタの中心に合わせ、チェックチェーンの張りで後方のビームが 8 ～10 cm 振れるように調整してください。



- (2) チェックチェーンがトラクタの車輪に当たらないことを確認してください。当たるときは振れ幅を小さくしてください。



6.4 最上げ位置の調節

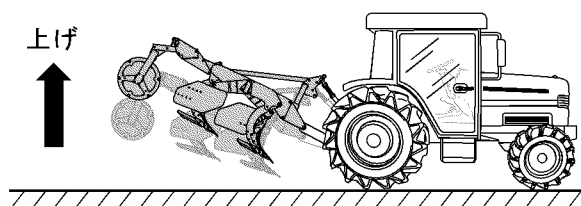
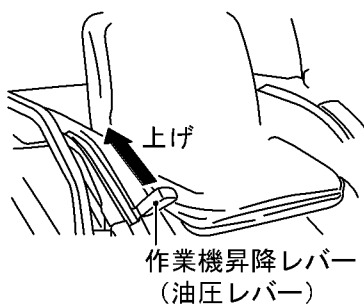
重要

- ・ トラクタによっては、スイッチで最上げまで自動上昇する機種があります。作業機が勢いよく上がるため、トラクタと作業機との間隔を 100 mm 以上開けるように上げ規制をしてください。
- ・ キャビン付きトラクタの場合は、トラクタ背面のガラスを突き上げないように注意してください。
- ・ 最上げ状態で、トラクタの水平装置を手動で操作する場合は、トラクタに干渉しないように注意してください。
- ・ トラクタ背面のガラスを開いたままで作業機を持ち上げないでください。
- ・ 上げ高さ規制をかけた状態であっても、トラクタの水平装置を操作すると、上げ高さ規制よりもさらに上昇する場合があるため、フェンダーなどに注意してください。

トラクタや作業機の損傷につながります。

1

ゆっくり作業機を上げ、振動や異音の出ない位置で作業機昇降レバー（油圧レバー）を止めます。



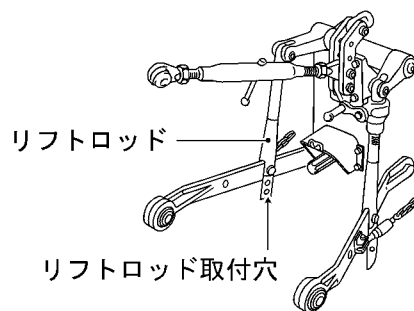
2

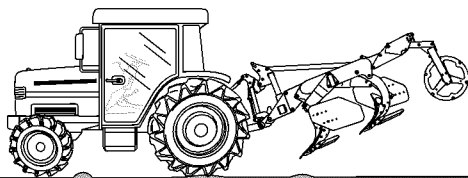
作業機昇降レバー（油圧レバー）を、上げ高さ規制ストッパーで固定します。

6.5 地上高が不足する場合

リフトロッドの取付穴位置を上下の穴に移して調整してください。

- ・ 上の穴位置にすると上がり量が増えます。
- ・ 下の穴位置にすると下がり量が増えます。





7 移動・ほ場への出入りと作業

7.1 移動・作業時の注意事項

⚠ 警告

- 急発進、急加速、高速走行、急制動、急旋回はしないでください。
- 運転者以外の人や物をトラクタや作業機に乗せて運ばないでください。
- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- トラクタに作業機が付いていると、後ろが長く、横幅が広がります。周囲の人や物に注意して走行してください。
- あぜ越えや段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用して、地面に接しない程度に作業機を下げ、重心を低くしてください。
- 両側に溝や傾斜のある農道を通るときは、特に路肩に注意してください。軟弱な路肩、草の茂った所は通らないでください。
- ほ場への出入りは、必ずあぜと直角に行ってください。
- 作業は平坦な場所で行ってください。傾斜地での作業は、転倒のおそれがあり大変危険です。
- 作業機を調整するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。

【守らないと】何かの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。

⚠ 警告

- 積込み、積降しをするときは、平らで交通の邪魔にならない場所でトラックのエンジンを止めます。動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。
- 使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めの付いているものを選んでください。長さの目安は荷台高さの4倍、またはあぜや段差の4倍です。

【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。

- 急な登り坂で前輪が浮き上がると、ハンドル操作ができなくなります。前輪分担荷重が全重の20%以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。
- トラクタの取扱説明書や販売店の指示に従って、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください。

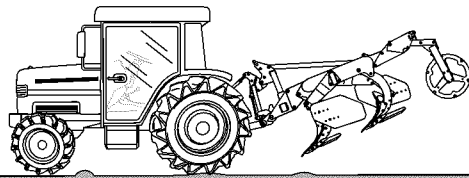
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

- 作業機は、絶対に素手で触れたり、足でけったりしないでください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機の損傷につながるおそれがあります。

- 作業機やトラクタに巻き付いた草などを取除くときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】作業機やトラクタに巻き込まれて、死亡事故や重傷を負うおそれがあります。



⚠ 注意

- トラクタに作業機を装着した状態では、「道路運送車両法の保安基準」に適合していなければ道路走行することはできません。トラクタと作業機の組み合わせごとに「保安基準」に適合していることの確認が必要です。

【守らないと】道路運送車両法違反となります。また、傷害事故をまねくおそれがあります。

- トラクタの取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

- 異常が発生したら、すぐにエンジンを停止し、点検を行ってください。

【守らないと】他の部分へ損傷がひろがり、事故につながるおそれがあります。

- あぜに作業機をぶつけないように、低速で余裕を持って運転してください。

【守らないと】傷害事故や作業機の損傷につながるおそれがあります。

- 作業中や作業後に、草やゴミを路上に落とさないでください。

【守らないと】道路交通法違反になるだけでなく、事故を引き起こすおそれがあります。

重要

- ・ 移動（前進・後進）する前に、作業機を地表面から 30 cm 以上持ち上げてください。
- ・ あぜ際を後進で作業の位置決めを行う場合は、作業機を十分に持ち上げ、あぜにぶつからないようにしてください。

作業機の損傷につながります。

- ・ キャビン付きトラクタの場合は、リヤウインドを閉めて、作業機の昇降操作を行ってください。トラクタや作業機の損傷につながります。

7.2 移動のしかた

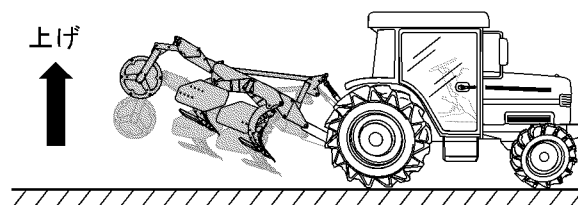
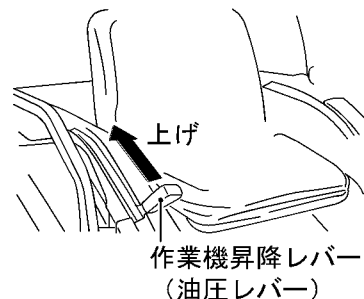
1

トラクタのエンジンをかけます。

2

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を上げて、作業機を最上げ位置にします。

（「6.4 最上げ位置の調節」（31 ページ）を参照してください。）

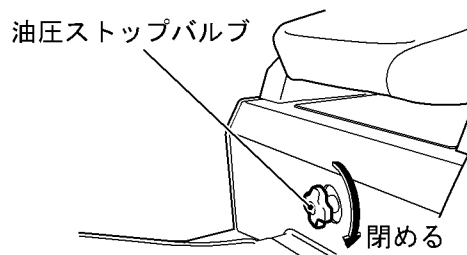


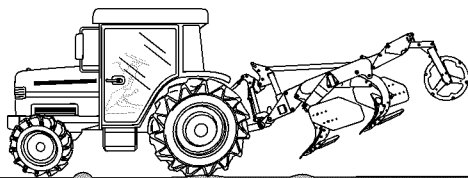
3

油圧ストップバルブを完全に閉めます。

注 記

- ・ 作業機が下がらないようにしてください。



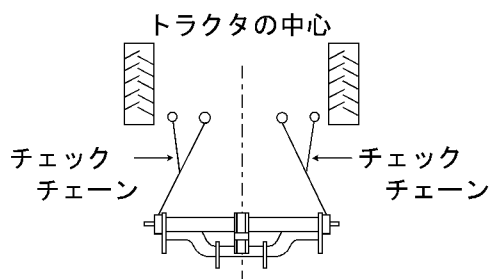


4

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

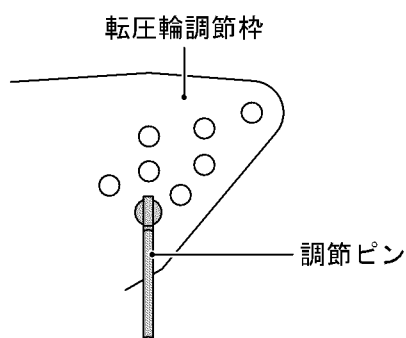
5

作業機が左右に振れないように、チェックチェーンを張り、ロックナットを締めます。



6

作業機の転圧輪調節枠（左・右）の調節ピンを下イラストの位置に差し、転圧輪を固定します。

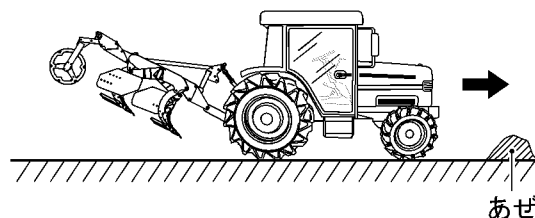


7

トラクタのエンジンをかけ、トラクタをゆっくりと移動させます。

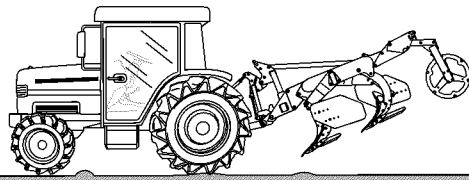
◆ほ場への出入り

ほ場への出入りはあぜと直角に、ゆっくり前進で行います。



注 記

- ・ 勾配がきつい場合は、後進で上り、前進で下りてください。
- ・ 作業機の地上高が不足する場合は、地上高を確保してください。（「6.5 地上高が不足する場合」（31 ページ）を参照してください。）



7.3 作業のしかた

7.3.1 耕うん方法

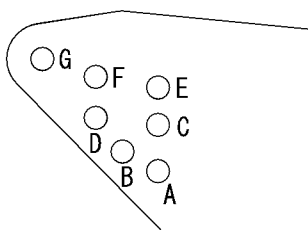
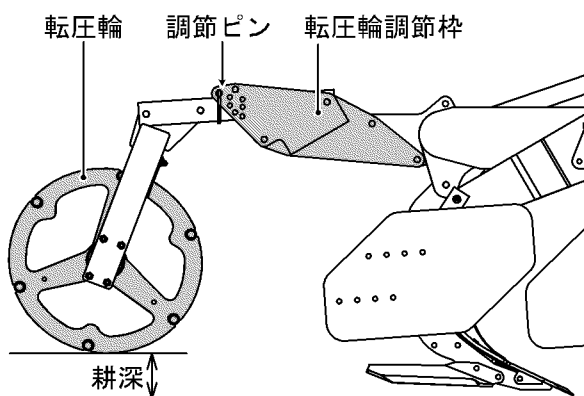
次の方法は、一般的に行われている往復耕起の標準耕法です。ほ場条件に合った方法で使用してください。

- (a) 田植機の進行方向と直角に作業を行います。
- (b) ほ場の固さ（軟らかさ）でトラクタの作業速度は変化します。
トラクタの車輪がスリップする場合は、作業速度を遅くします。
- (c) 排水や、土の流出を考慮して作業を行います。

7.4 上手な作業のしかた

7.4.1 耕深調整

転圧輪調節枠（左・右）の調節ピンを任意の穴に取付けます。7段階に調整が可能です。



穴位置	耕深
A	8 cm
B	10 cm
C	12 cm
D	15 cm

穴位置	耕深
E	17 cm
F	20 cm
G	25 cm

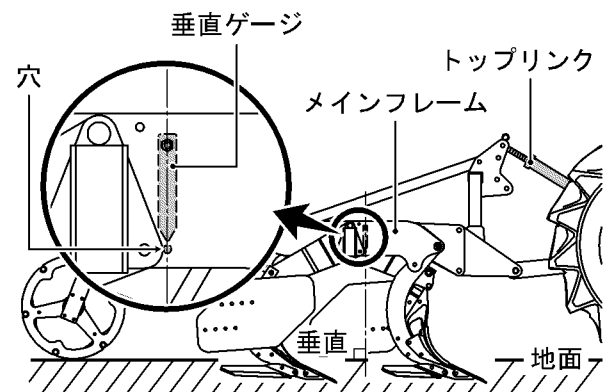
注 記

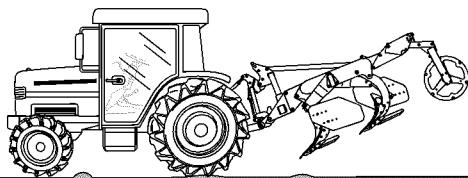
- ・ 数値は目安です。ほ場条件により変わります。

7.4.2 前後角度調整

作業状態での前後角度を調整します。

- 1** 耕深調整を行います。
(前項「7.4.1 耕深調整」を参照してください。)
- 2** 1 ～ 2 m 作業を行います。
- 3** 作業状態のままトラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。
- 4** 作業機の垂直ゲージの先端がフレームの穴を指すように、トップリンクの長さを調整します。





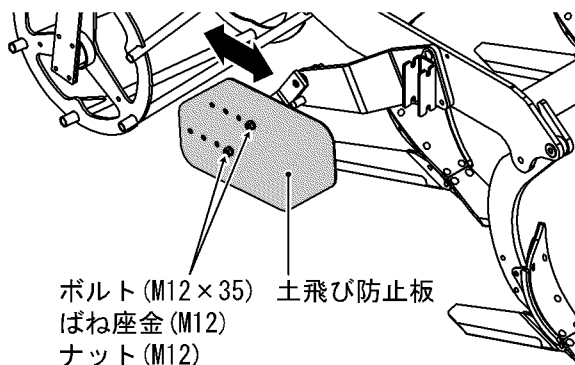
7.4.3 土飛び防止板の調整

土飛び防止板はボルト (M12×35)・ばね座金 (M12)・ナット (M12) を取外し、取付位置を変更することにより、前後に4段階の調整が可能です。土の飛び方により調整してください。

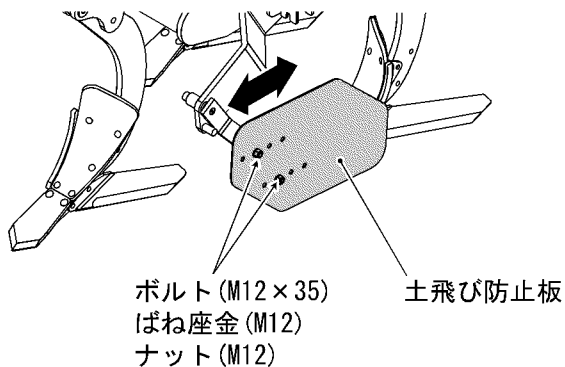
注 記

- ・ わらの多いほ場では、土飛び防止板とビームの間にわらが詰まる可能性があります。その場合は土飛び防止板を取外して使用してください。

■作業機右側



■作業機左側



8 取外しについて

8.1 取外しの注意事項

⚠ 警告

- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。
- 平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。
- 作業機を取外すときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

- 作業機をトラクタから取外す前に、必ずスタンドを取付けてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、作業機の損傷をまねくおそれがあります。

⚠ 注意

- トラクタの取扱説明書をよく読んでください。
【守らないと】取外しができなかつたり、傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながったりするおそれがあります。

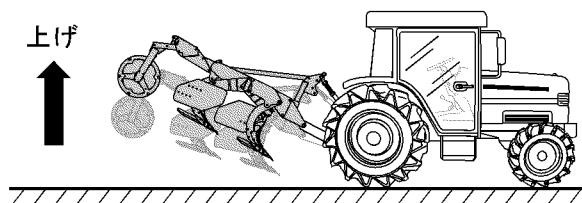
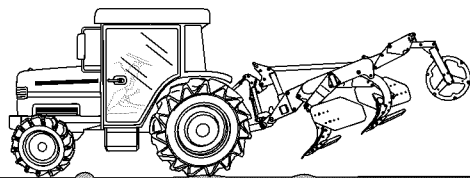
8.2 標準 3 点リンク直装

1

トラクタのエンジンをかけます。

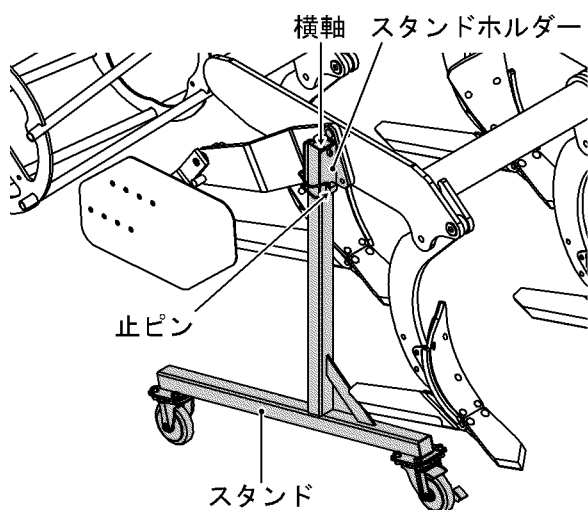
2

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を上げて、作業機をゆっくり上げます。



- 3** トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

- 4** 作業機のスタンドホルダーにスタンドの横軸を掛け、止ピンを差して固定します。

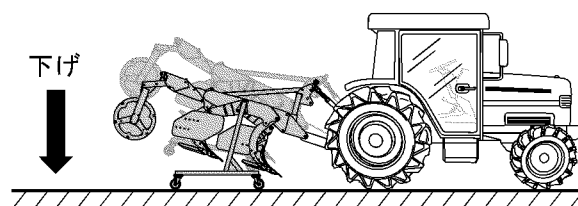
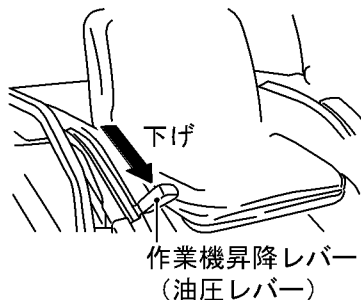


注 記

- ・ ストップ付キャスターがトラクタ側になるように組付けてください。
- ・ ストップ付キャスターのストッパーがロック位置になっていない場合は、ロック位置にしてください。

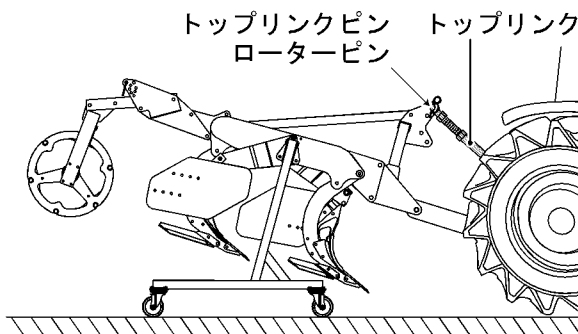
- 5** トラクタのエンジンをかけます。

- 6** トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、作業機をゆっくり地面まで下げます。



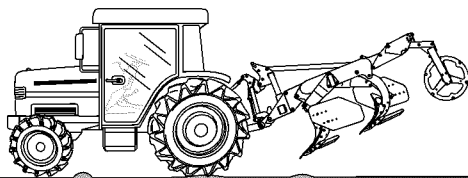
- 7** トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

- 8** ローターピンを外してトップリックピンを抜き、トラクタのトップリックを作業機のマストから取外します。



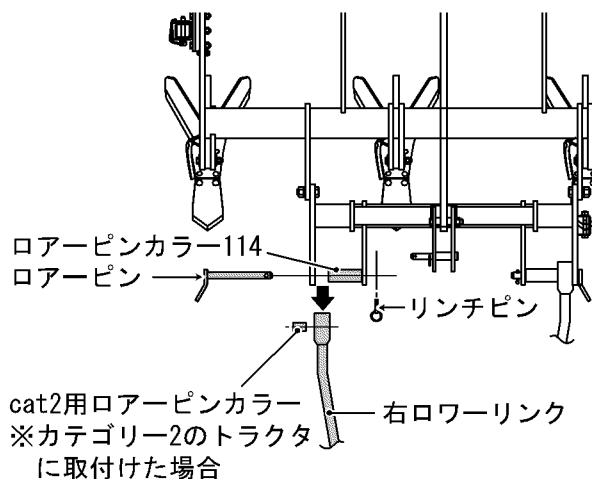
注 記

- ・ 外れないときは、トップリックの長さを調節してください。



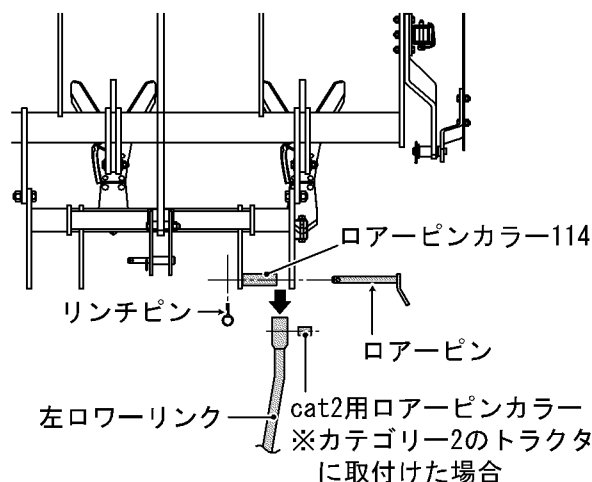
9

リンチピンを外してローアピンを抜き、トラクタの右ローリンクを作業機の右ヒッチアームから取外します。



10

リンチピンを外してローアピンを抜き、トラクタの左ローリンクを作業機の左ヒッチアームから取外します。



11

トラクタのエンジンをかけ、トラクタをゆっくり前進させます。

8.3 OS/S シリーズ

1

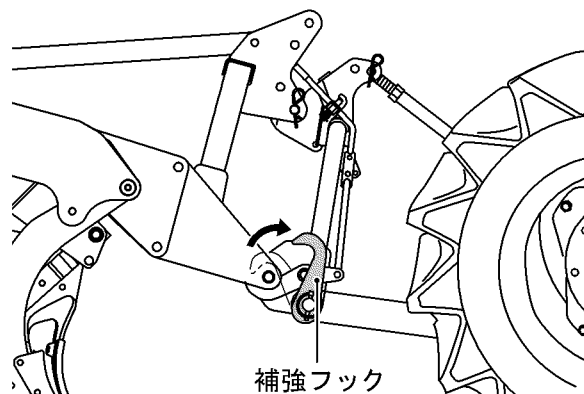
トラクタのエンジンをかけ、作業機を地面に下ろします。

2

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

3

補強フックをローアピンガイドから外します。

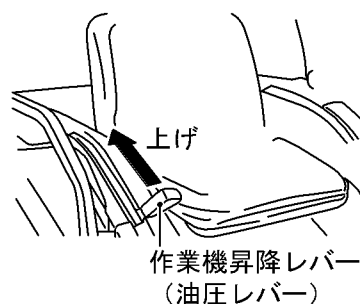


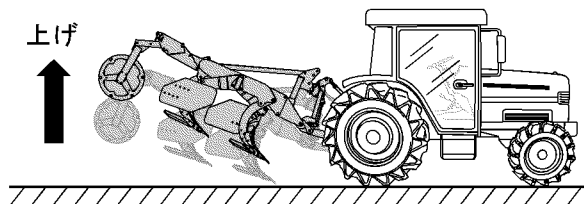
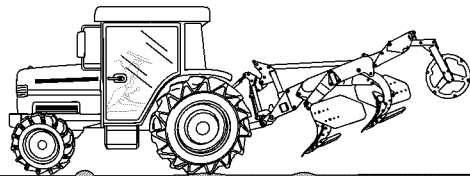
4

トラクタのエンジンをかけます。

5

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を上げて、作業機をゆっくり上げます。





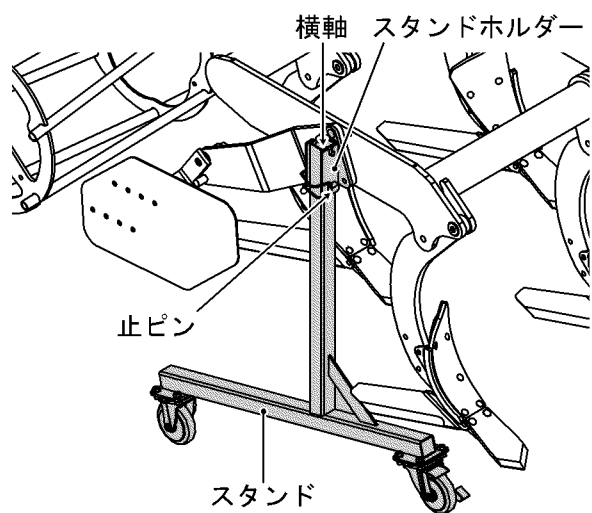
6

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。

また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

7

作業機のスタンドホルダーにスタンドの横軸を掛け、止ピンを差して固定します。

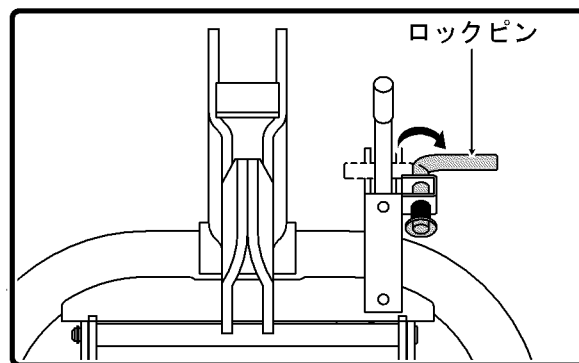
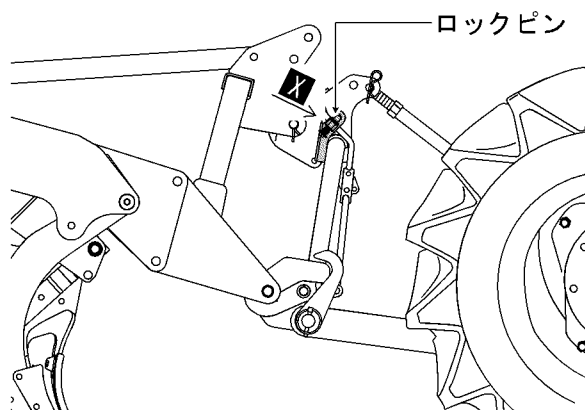


注 記

- ・ ストップ付キャスターがトラクタ側になるように組付けてください。
- ・ ストップ付キャスターのストッパーがロック位置になっていない場合は、ロック位置にしてください。

8

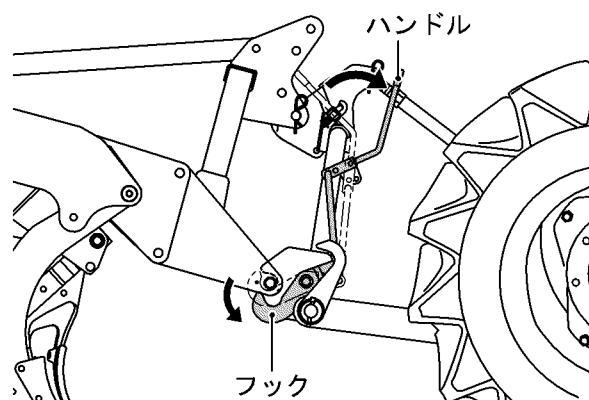
カブラのハンドルのロックピンを解除します。

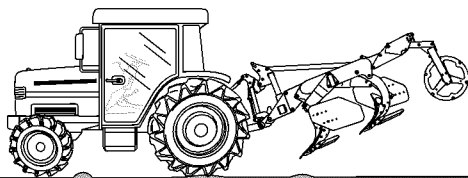


X 視

9

カブラのハンドルを引き、フックを解除します。



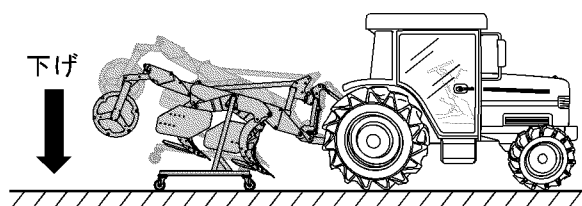
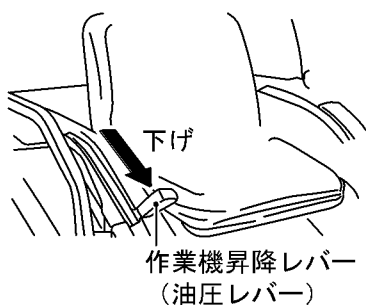


10

トラクタのエンジンをかけます。

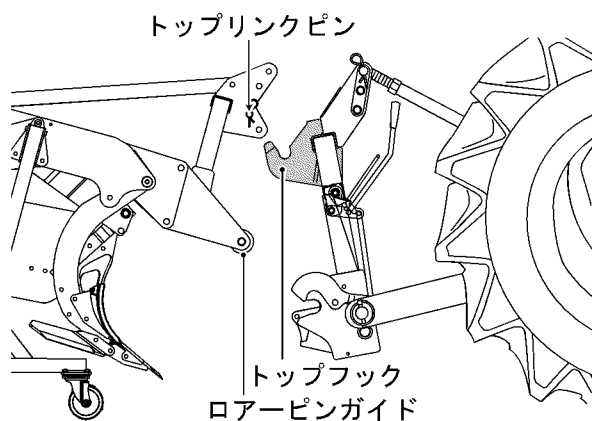
11

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、作業機をゆっくり下げます。



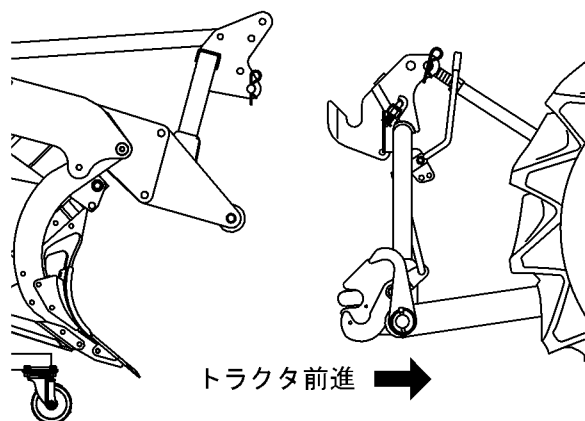
12

カプラからロアーピンガイドが抜け、トップリンクピンからトップフックが外れたことを確認します。



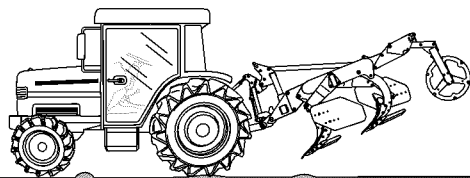
13

トラクタをゆっくり前進させます。



注 記

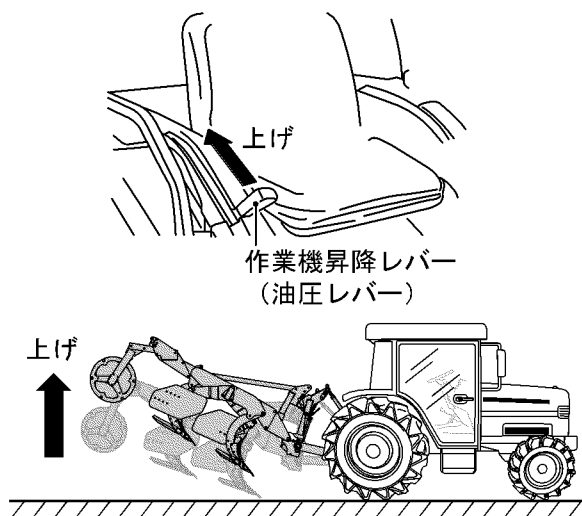
- ・ 作業機が外れない場合は、トラクタと作業機の左右の傾斜が合っていないか、トラクタがまっすぐ前進していないかのどちらかです。確認してやり直してください。



8.4 OL/L シリーズ

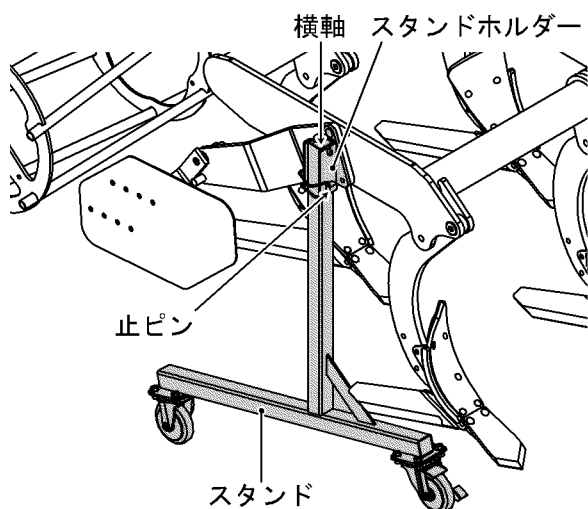
1 トラクタのエンジンをかけます。

2 トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を上げて、作業機をゆっくり上げます。



3 トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

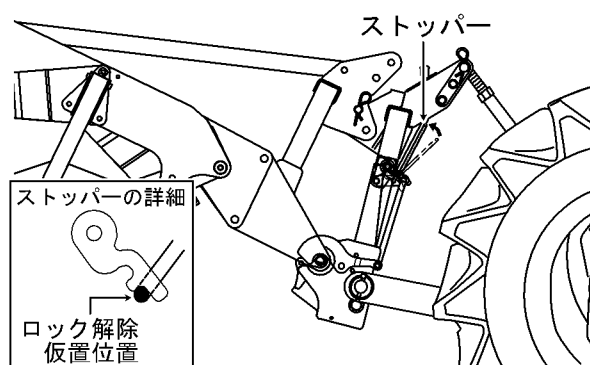
4 作業機のスタンドホルダーにスタンドの横軸を掛け、止ピンを差して固定します。



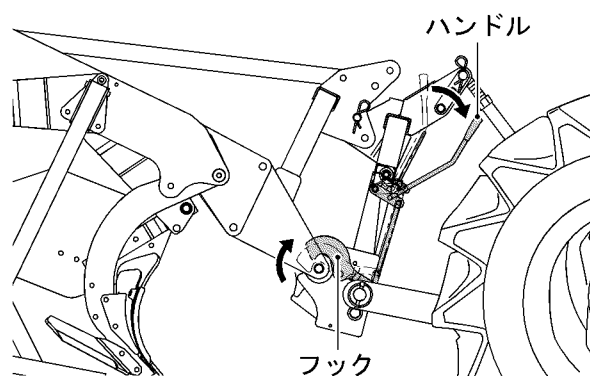
注 記

- ・ ストッパ付キャスターがトラクタ側になるように組付けてください。
- ・ ストッパ付キャスターのストッパーがロック位置になっていない場合は、ロック位置にしてください。

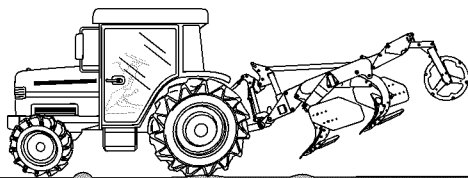
5 ストッパーを引き上げ、カブラのハンドルのロックを解除します。



6 カブラのハンドルを引き、フックを解除します。

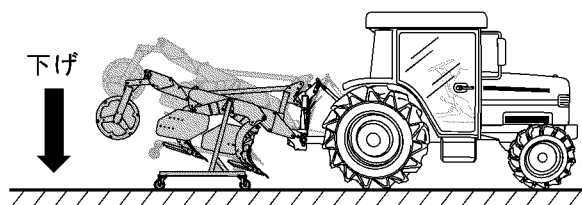
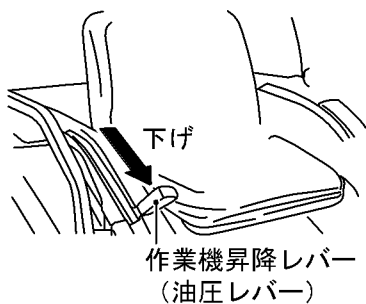


7 トラクタのエンジンをかけます。



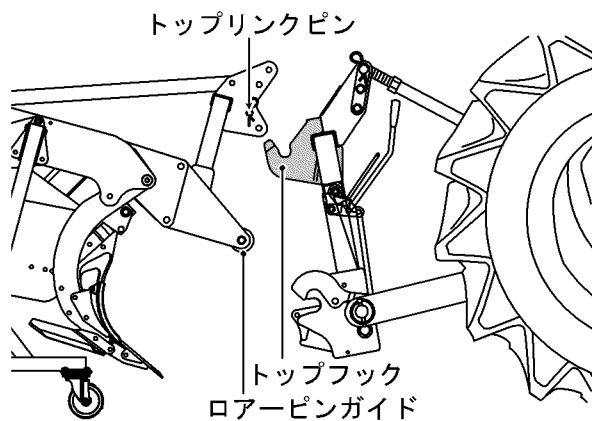
8

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、作業機をゆっくり下げます。



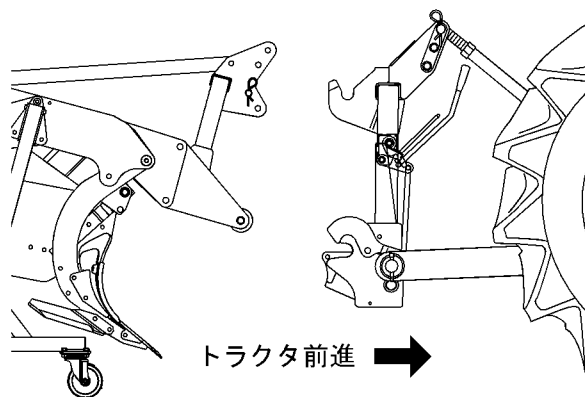
9

カプラからロアーピンガイドが抜け、トップリンクピンからトップフックが外れたことを確認します。



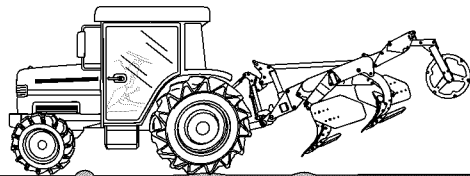
10

トラクタをゆっくり前進させます。



注 記

- ・ 作業機が外れない場合は、トラクタと作業機の左右の傾斜が合っていないか、トラクタがまっすぐ前進していないかのどちらかです。確認してやり直してください。



9 保守・点検

長くお使いいただくためには、日常の保守管理が大切です。

9.1 保守・点検時の注意事項

⚠ 警告

- 交通の邪魔にならない場所で行ってください。
- 作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
- トラクタの車輪には車止めをしてください。
- トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。

また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

- 作業機が下がることを防止するため、トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。
- 変形・損傷などの異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 点検・整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。
【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。
- 厚手の手袋を着用し、手を保護してください。
【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。

環境

- ・ 消耗品などを捨てるときは、お買い上げいただいた購入先にご相談ください。
むやみに捨てると環境汚染になります。

9.2 ボルト・ナットのゆるみ点検

使用時ごとに各部のボルト・ナットを増締めしてください。新品の場合は、使用開始から 2 時間後に必ず増締めをしてください。

9.3 シャーボルトの点検と交換

9.3.1 シャーボルトの点検

過負荷による作業機の損傷を防ぐため、シャーボルトを使用しています。

シャーボルトが切れている場合、または作業中に切れた場合は、シャーボルトを交換してください。

（次項「9.3.2 シャーボルトの交換」を参照してください。）

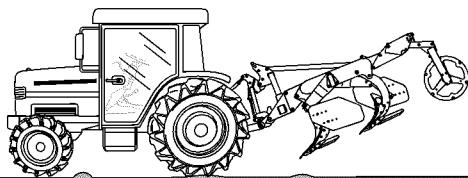
9.3.2 シャーボルトの交換

重要

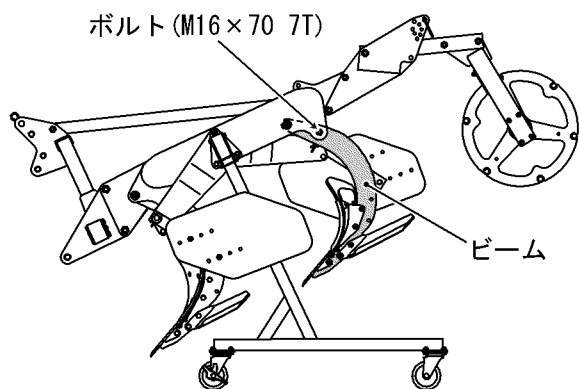
- ・ シャーボルトは、当社指定のものを使用してください。

シャーボルトが規定の負荷で切れず、作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

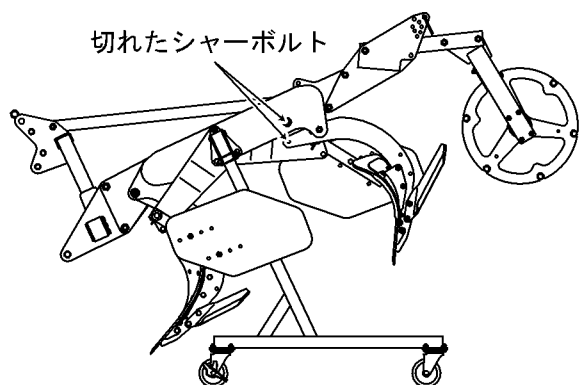
品名	品番
シャーボルト（10 本組）	P841 901000
シャーボルト（1 本組）	P841 902000



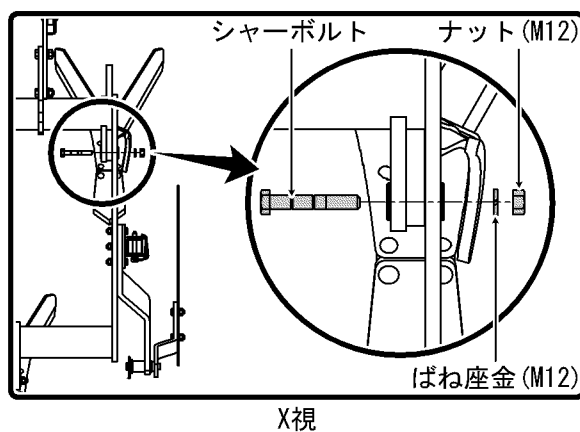
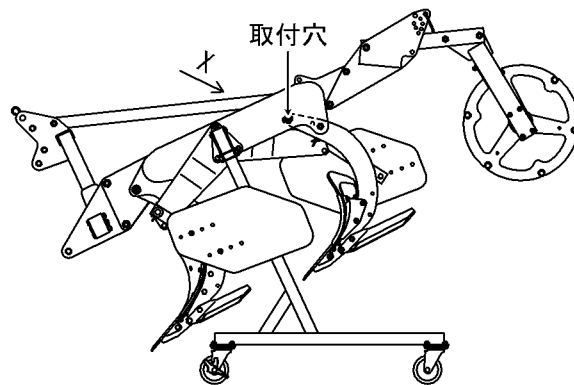
- 1** ビームのボルト (M16×70 7T) をゆるめます。



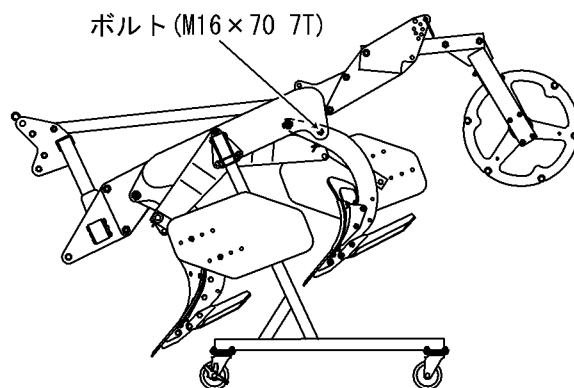
- 2** 切れたシャーボルトを取除きます。

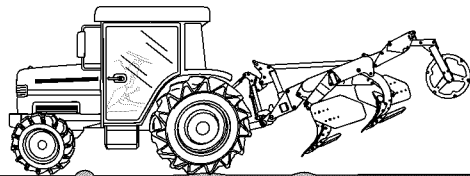


- 3** 取付穴をあわせて新しいシャーボルトを差し、ばね座金 (M12) とナット (M12) で固定します。



- 4** 手順 1 でゆるめたビームのボルト (M16×70 7T) を締付けます。

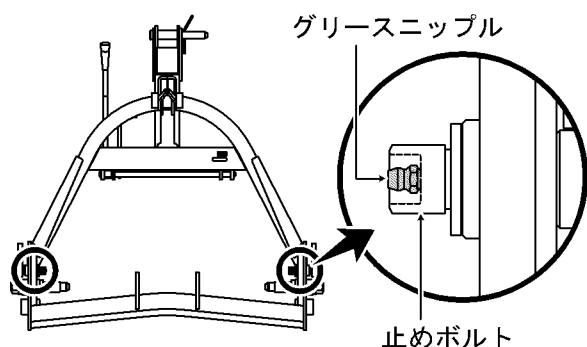




9.4 グリースの補充

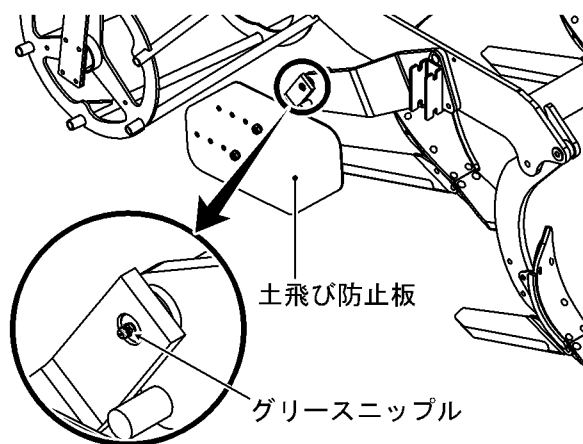
9.4.1 EL61・EL62 カプラ (OL/L シリーズ)

作業前に、左右フックの止めボルトのグリースニップルにグリースを補充してください。



9.4.2 土飛び防止板

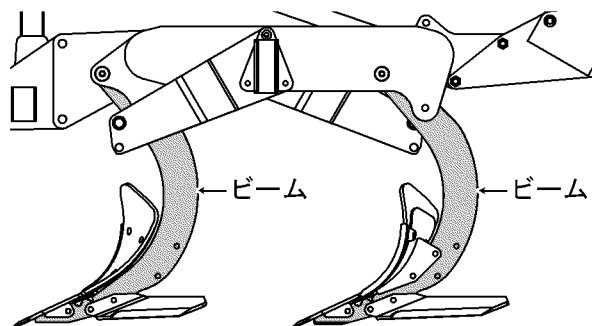
作業機左右の土飛び防止板のグリースニップルにグリースを適量注入します。



9.5 消耗部品の交換

9.5.1 ビーム

スリ減りを確認したら、新しいものと交換してください。



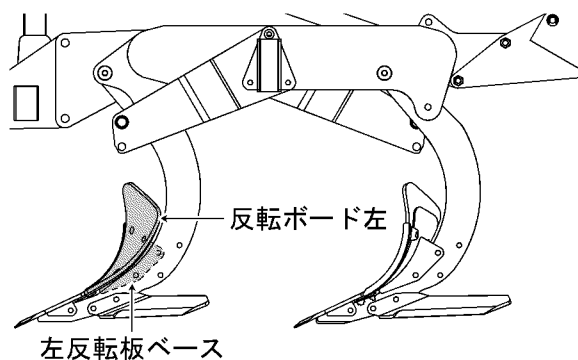
品名	品番
ビーム	P853 105000

9.5.2 反転ボード

スリ減りを確認したら、新しいものと交換してください。

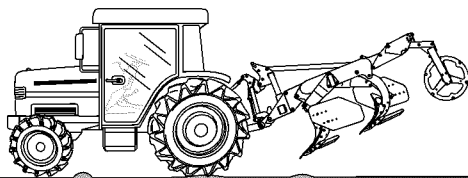
■作業機前列

◆APS1901・2501

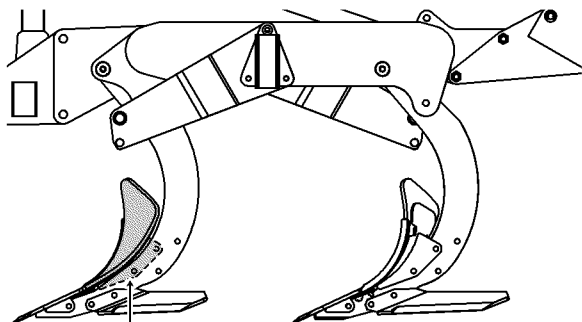


品名	品番
反転ボード左	P853 110000
左反転板ベース	P853 108000
反転ボード左 ASSY ※	P853 903000

※ 反転ボード左 ASSY には取付用のボルト・ナットが含まれます。



◆APS1901T・2501T



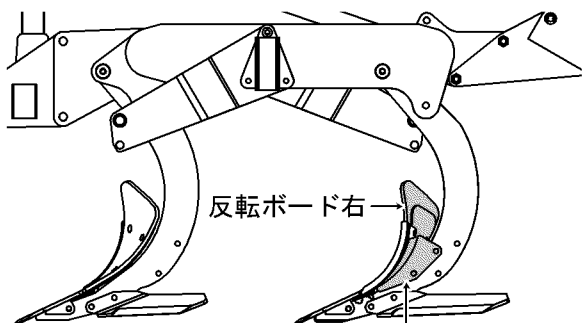
スチール反転ボード左

品名	品番
スチール反転ボード左	P853 145000
スチール反転ボード左 ASSY ※	P853 903000

※ スチール反転ボード左 ASSY には取付用のボルト・ナットが含まれます。

■作業機後列

◆APS1901・2501



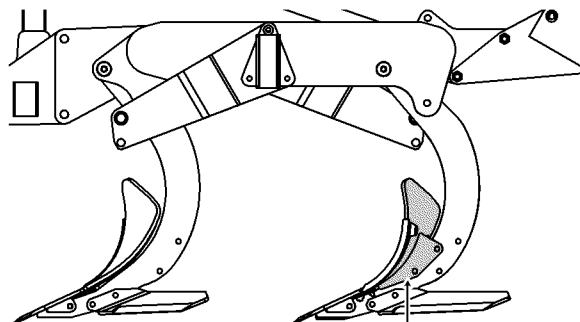
反転ボード右

右反転板ベース

品名	品番
反転ボード右	P853 109000
右反転板ベース	P853 107000
反転ボード右 ASSY ※	P853 902000

※ 反転ボード右 ASSY には取付用のボルト・ナットが含まれます。

◆APS1901T・2501T



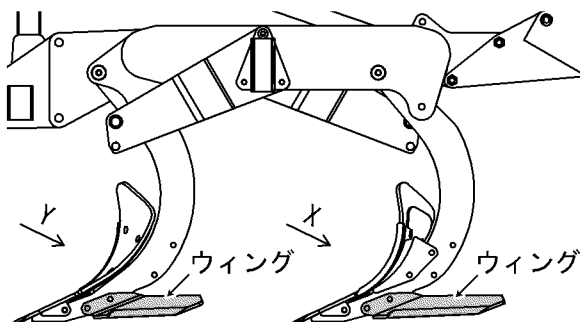
スチール反転ボード右

品名	品番
スチール反転ボード右	P853 107000
スチール反転ボード右 ASSY ※	P853 902000

※ スチール反転ボード右 ASSY には取付用のボルト・ナットが含まれます。

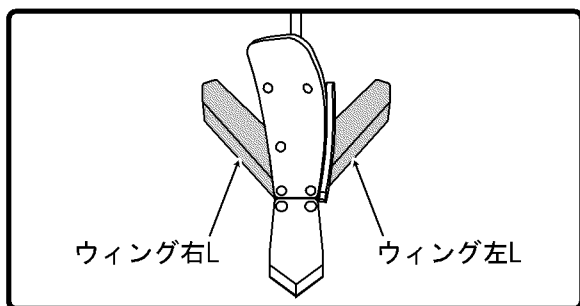
9.5.3 ウィング

スリ減りを確認したら、新しいものと交換してください。



ウィング

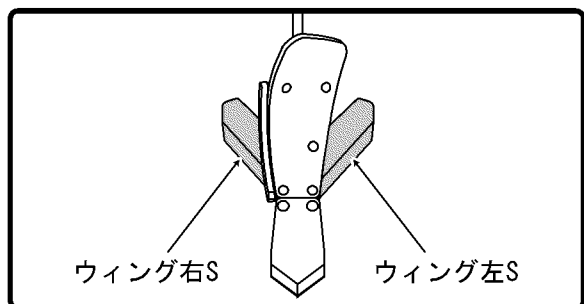
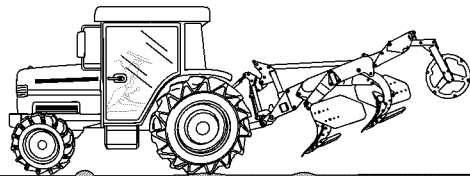
ウィング



ウィング右L

ウィング左L

X視

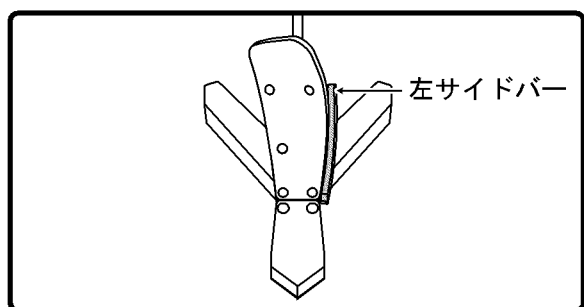
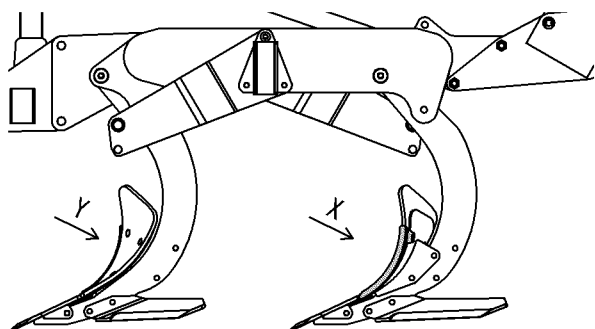


Y視

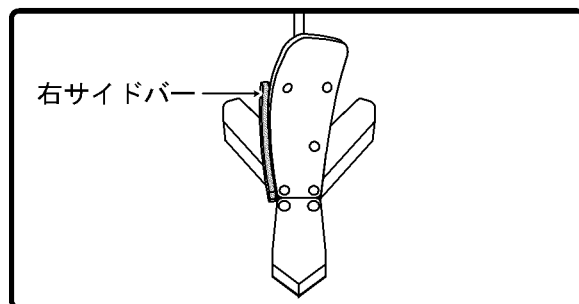
品名	品番
ウイング左L	S200 102000
ウイング右L	S200 103000
ウイング左S	P854 107000
ウイング右S	P854 108000

9.5.4 サイドバー

スリ減りを確認したら、新しいものと交換してください。



X視



Y視

品名	品番
左サイドバー	P853 136000
右サイドバー	P853 137000

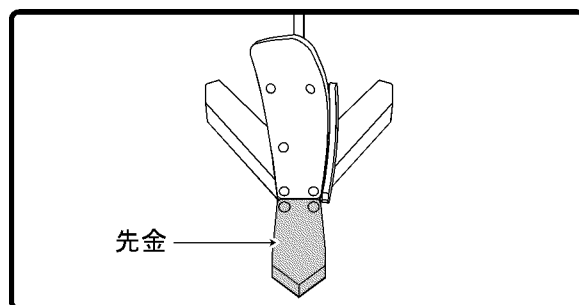
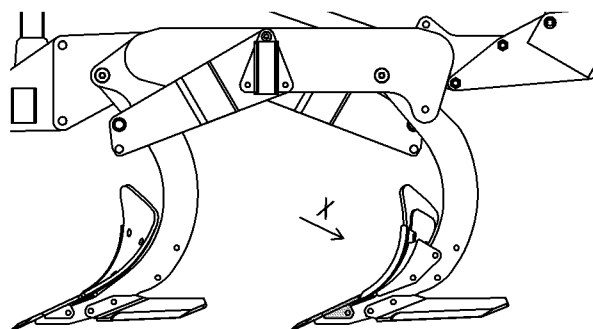
9.5.5 先金

スリ減りを確認したら、新しいものと交換してください。

重要

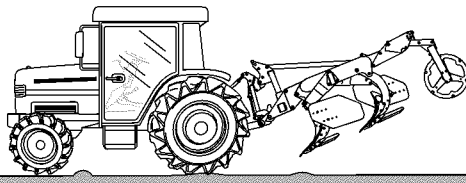
- ・ 12 cm 以上磨耗する前に、新しいものと交換してください。

ビームが損傷します。



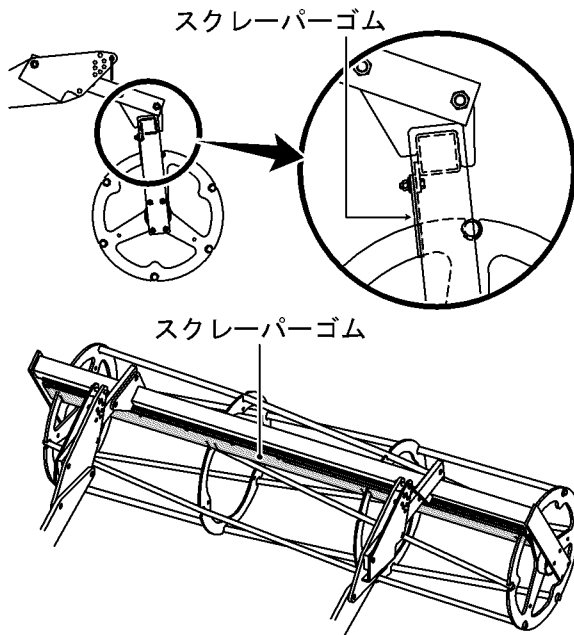
X視

品名	品番
先金	P853 106000



9.5.6 スクレーパーゴム

スリ減りを確認したら、新しいものと交換してください。

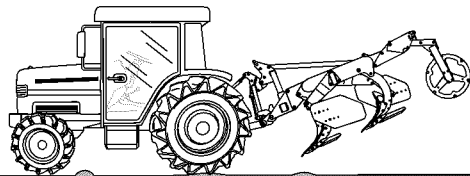


■APS1901・1901T

品名	品番
スクレーパーゴム 19	P853 113000

■APS2501・2501T

品名	品番
スクレーパーゴム 25	S201 104000



10 格納について

⚠ 注意

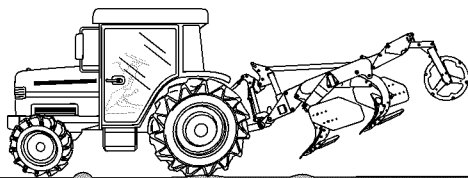
- 雨や風が当たらず、平らで固い場所を選んでください。
 - スタンドのキャスターにストッパーをかけて、ころがり防止をしてください。
- 【守らないと】作業機の転倒などにより、傷害事故や作業機の損傷につながります。

カプラをトラクタから取外した場合、取外したカプラを作業機に取付けて格納しないでください。
(0S/S シリーズ、0L/L シリーズ)

【守らないと】カプラが落下し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

格納する前に下記の作業を行ってください。

- (1) 作業機はきれいに清掃してください。
- (2) 格納はできる限り屋内にしてください。



11 保証とサービスについて

11.1 保証について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられるときに必要となるものです。
お読みになった後は大切に保管してください。

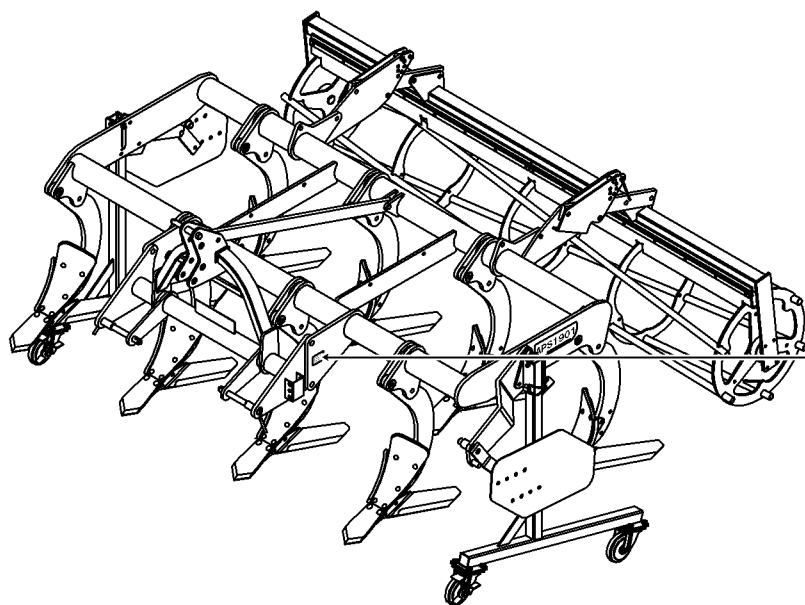
11.2 アフターサービスについて

11.2.1 修理を依頼される時

作業機の調子が悪いときは、この取扱説明書を参照し、点検してください。
点検・整備しても不具合がある場合は、お買い上げいただいた購入先へ、下記内容をご連絡ください。

- 型式と製造番号 - ご使用状況	ネームプレートに記載（「11.2.2 ネームプレートの位置」を参照） - 水田ですか？ 畑ですか？ - ほ場の条件は石が多いですか？ 強粘土ですか？ - トラクタの型式は？ ・トラクタの速度は？
- どのくらい使用されましたか？ - 不具合が発生したときの状況になるべく、くわしく教えてください。	約□□アール または□□時間

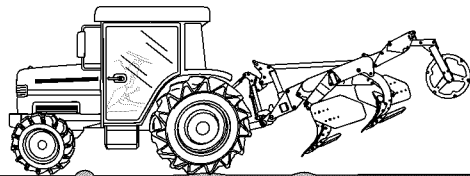
11.2.2 ネームプレートの位置



ニトロ	スピードカルチ
型 式	
区 分	
製造元	松山株式会社
製造番号	

11.3 補修部品と供給年限について

- 補修部品は、純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、作業機の不調や性能に影響する場合があります。
- この作業機の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし供給年限内であっても、特殊部品については納期などご相談させていただく場合があります。



12 用語と解説

アタッチメント

作業機に後付けする製品

オートヒッチ、カプラ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

耕深

耕起、耕うんする深さ

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

ターンバックル

ねじ機構により胴部を回転させて両端の長さを調整できる装置

チェックチェーン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェーン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

ドラフトコントロール

作業機に加わる土壌抵抗を利用することにより、一定以上の抵抗になると自動的に油圧を作動させ、車輪のスリップを防ぎ、安定したけん引作業をすることができる装置

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

揚力

トラクタが作業機を上昇させるための力

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロワーリンクと連結しているアーム

ロワーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで左右1本ずつある

<http://www.niplo.co.jp>

Niplo 松山株式会社

- 本社 〒386-0497
長野県上田市塩川5155
Tel. (0268) 42-7500
Fax. (0268) 42-7556
- 物流センター 〒386-0497
長野県上田市塩川2949
Tel. (0268) 36-4111
Fax. (0268) 36-3335
- 北海道営業所 〒068-0111
北海道岩見沢市栗沢町由良194-5
Tel. (0126) 45-4000
Fax. (0126) 45-4516
- 旭川出張所 〒079-8451
北海道旭川市永山北1条8丁目32
Tel. (0166) 46-2505
Fax. (0166) 46-2501
- 帯広出張所 〒082-0004
北海道河西郡芽室町東芽室北1線18番10
Tel. (0155) 62-5370
Fax. (0155) 62-5373
- 東北営業所 〒989-6228
宮城県大崎市古川清水三丁目石田24番11
Tel. (0229) 26-5651
Fax. (0229) 26-5655
- 関東営業所 〒329-4411
栃木県栃木市大平町横堀みずほ5-3
Tel. (0282) 45-1226
Fax. (0282) 44-0050
- 長野営業所 〒386-0497
長野県上田市塩川2949
Tel. (0268) 35-0323
Fax. (0268) 36-4787
- 岡山営業所 〒708-1104
岡山県津山市綾部1764-2
Tel. (0868) 29-1180
Fax. (0868) 29-1325
- 九州営業所 〒869-0416
熊本県宇土市松山町1134-10
Tel. (0964) 24-5777
Fax. (0964) 22-6775
- 南九州出張所 〒885-0074
宮崎県都城市甲斐元町3389-1
Tel. (0986) 24-6412
Fax. (0986) 25-7044

